実践ノート

看図作文を大学授業の期末レポートに活用する試み
―森 寛の中学校授業を参考にして―

石田ゆき [1)]

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・看図作文・教育心理学・主体性・創造性

Ⅰ．はじめに

筆者は医療系Ａ大学で「教育学」と「教育心理学」を担当している。各科目の対象はそれぞれ１年生と２年生，授業回数は各８回。どちらも選択科目であり１コマ 90 分配当である。「教育学」の授業の一部については石田（2021a，2021b，2021c，2021d）でオンライン形式の実践例を報告してきた。しかし，２年生が対象となる「教育心理学」授業については未だほとんど実践報告をしてきていない。本研究誌では石田他（2019）のみである。そこで本稿では「教育心理学」授業の「期末レポート」の記録を紹介していきたい。期末レポートでは看図作文を書いてもらっている。看図作文を書いてもらう手順は，森寛（2022a）に倣っている。

「教育心理学の授業の全貌を紹介していないのにいきなり期末レポート？」とツッコミが入りそうではあるが，８回の授業の詳細については別の機会にまわしたい。本稿では，看図アプローチ基盤型授業を８回（または 16 回）経験した学生がどれくらい「主体性」「創造性」を発揮できるようになるのか，いち早く読者の方にお伝えしたい。

Ⅱ．実践の経緯と倫理的配慮

「いち早く読者の方にお伝えしたい」とは言うものの，最低限の経緯は書きたいと思う。

筆者は例年，教育心理学初回授業のガイダンスで「この科目では主に『主体性』『創造性』『思考力』『表現力』を『見ること』を通して学んでいきます」ということをアナウンスする。この科目は「学習者が自分の頭で考えて実行・表現できるようになる」ことを目標とした授業である。シラバスの内容の一部を掲載しておく。「授業の概要」はＡ大学が策定したものである。「授業計画」はＡ大学から示された「授業の概要」をもとに筆者がまとめたものである。

【授業の概要】

> 学校，家庭での教育・訓育活動，そのもとでの児童・生徒の学習や活動およびその相互作用の結果として生じる子供の精神発達，人格形成の諸過程など，一般に教育過程・教育事象といわれる諸過程・諸事象について，心理学の方法で接近し，それらの諸過程の心理学的合法則性を明らかにし，そのことを通して，教育実践に貢献することを目標にしている学問である。授業の中では，教育心理学を基礎とした体験学習の組み立て方を学び，実践し，その仕組みを教育心理学的に整理していく。

1) 日本医療大学

【シラバス】

第１回目	【ガイダンス等】 体験学習入門
第２回目	【「予測－確認」活動の心理学的意義】 照合特性の動機づけ効果について学ぶ
第３回目	【新しい学力観】 ヴィジュアル・リテラシーの育成について学ぶ
第４回目	【内面表出技法（1)】 内面表出エクササイズと教育心理学的意義について学ぶ
第５回目	【内面表出技法（2)】 内面表出エクササイズと教育心理学的意義について学ぶ
第６回目	【創造性（1)】 創造性の開発技法について学ぶ
第７回目	【創造性（2)】 創造性の開発技法について学ぶ
第８回目	【自己教育力を未来につなげる】 自己開示等について学ぶ

すべての授業で協同学習スタイルをとっている。各授業においてはアクティブ・ラーニングの要素として，看図アプローチ，内面表出エクササイズ，クリエイティブ・アクティビティーを採用し実施している。毎時間必ず，ビジュアルテキストの読解活動を取り入れた看図アプローチ基盤型授業を展開するところが筆者の授業の特徴といえる。

本稿執筆にあたり次のような倫理的配慮をした。履修者からはレポート等を授業の中で紹介すること及び論文等で紹介することについての承諾を書面によって得ている。承諾を得られなかった学生（承諾書未提出も含む）の資料は活用していない。このため履修登録者は 74 名であるが，本稿では 72 名分のデータを用いた。

教育心理学の授業を履修する学生は，１年次に教育学の授業を履修している場合が多い。そのため学生たちは，筆者の授業が看図アプローチ基盤型授業であることも，グループディスカッションを多用した協同学習形式であることもすぐに受け入れてくれる。むしろそういう時間を求めて履修する学生が多い。もちろん２年生になって初めて筆者の授業を履修する学生もいる。筆者の授業を初体験した学生の感想には次のようなものがあった。なお 2022 年度に筆者の授業を初めて履修した学生は 74 名中 14 名である。「初めて」という言葉が出てくる感想を一部抜粋する。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例１

> 私は教育学を取ってはいなく，今回初めて先生を見たし，進め方も初めてだったが，グループワークをする授業はほんとに少なく，自分の意見を言う授業もほとんど無いため，楽しいと思った。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例２

> 去年教育学を履修していなくて初めて先生の講義を受けるのですが，他の講義のように決まった答えがあるわけではなく，唯一決まりのない答えを出すことができ，自由に考えることができる講義で，そのような講義が割と好きなので履修しました。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例３

> 私は教育学は受講していなかったので今回初めて受講することになりましたが，大学の他の講義では座学が多めであまり他の学生と話す機会が少ないので受けていて結構楽しかったです。これからの講義も楽しみです。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例３

> はじめての「教育」についての講義で，学べることが多くありました。イラストの読み解きを通して「もの」や「こと」についての理解が周りの年齢が同じ人であってもこんなにも違いが出るのかと驚きました。大きな違いでなくても表現の仕方や捉え方次第で変わることに気づけました。フォックスの実験からも，お互いの考えで実験結果の要因についてなども差が出るし，その差には知識だった

り感情論だったりさまざまで色々な会話ができてとても楽しかったです。次回はまた他の人ともいろいろな会話ができるとより楽しそうだなと感じました。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例 4

今回，石田先生の講義を初めて受けたので，こんなにグループワークがあるとは思いませんでした。私はグループワークや意見交換などがとても好きなので，講義がすごく楽しかったです。大学に入ってこんなに講義を楽しめたのは初めてでした！来週の講義も楽しみです。

また，2 年連続で筆者の授業を履修することになった学生の感想には次のようなものがあった。

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 1

石田先生，お久しぶりです！ 1 年生の教育学ぶりです！この講義では 1 つのものを色々な角度から考える能力が付くと思っています。また，あえて答えが無い様な問題を皆んなの意見を集めてディスカッションする事で考えの幅を広げる事が出来ると思います。 1 つでも他の人と違う意見を出して主体的な学びを目指したいと思います！どうぞ宜しくお願いします！

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 2

約 1 年ぶりの教育学（教育心理）すごく楽しみにしてました。あの頃に比べたら友人と相談したり，会話することは多くなりましたが，授業の中で討論するなどの時間は無く，久しぶりの感じだったので，とても楽しかったです。

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 3

今回授業で見たきゅうちゃんのイラストはシンプルなものでしたが，アイスブレイクを通して様々な見え方があることが発見でした。自分だったら思いつかないような発想をしている方が何人かいて，見え方というのは無限大だと感じました。また，発想力次第で見え方というのは広がってくると思うので，今回の授業を通して発想力を身につけていきたいと思いました。また，発想力はリハビリテーションを行う際にも求められます。患者さんがより積極的にリハビリに取り組むためには興味を持てるようなリハビリ計画を考案したりすることが大切です。もちろんリハビリの知識は大事ですが，発想力を応用して将来セラピストになった際には患者さんにより良いリハビリを提供できるようにしていきたいです。

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 4

昨年も先生の講義を履修しましたが大学ではめったに聞くことのできない友達の考え方を聞くことのできる教科でとても楽しく，得るものが多かったので今年も履修しました。

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 5

石田先生お久しぶりです。先生の授業がもう 1 年前になると考えると 1 年があっという間でした。昨年授業でやった江別のレンガは 1 番覚えてます。先月江別に行ったのですが，その時もこれが先生の言ってたレンガかと話になるほど先生のことを忘れていませんでした。そして，今日の授業の感想ですがラウンドロビンとバズセッションはやり方は覚えていたけど言葉を忘れていて悔しかったです。僕は覚えていた気になっていただけなのだととても思いました。もしかしたら，先生の授業がこれが最後かもしれないのでもう忘れないようにしっかり話を聞こうと誓いました。今年も 1 年よろしくお願いします。

2 年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 6

石田先生お久しぶりです！ 1 年生の頃に教育学を受けていた，〇〇です！覚えていらっ

しゃらないとは思いますが，私は久しぶりに石田先生の姿をお見かけすることができて，すごく嬉しかったです！ずっとメールを送りたかったのですが，先生はお忙しいので渋って渋って控えさせていただきました（笑）。また今日から教育心理学の授業を通して合法的にメールをお送りできるということで，すごくハッピーな気持ちでいっぱいです。今日の授業を楽しみにしていました！お忙しいとは思いますが，私の長いメールを全て読んでもらえると嬉しいです！今日の授業で，1年前の教育学でやった「見ること」が再び登場してくれて，懐かしく思いました。

2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例7

私は教育心理学は一年生のときに教育学を受講して，とても面白かったので二年生でも受講したいなと思って選択しました。自分と異なる考え方に触れることが，このような機会でしかなく，話し合いをすることが面白いということを知ってしまったので二年生でも受講できてよかったです。これからよろしくお願いします。

2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例8

1年生の時の石田先生の授業を受講して次も受けたいと思い，この授業を選択しました。前回，「みる」に焦点を当てた授業で受けていてとても楽しく，セラピストとしての役に立つ知識を得ることができたと思います。そのため，私は前回の授業を通して「私も楽しく，リハビリをしてもらいたい！」という気持ちが強くなり，もっと先生の授業を受けたくなりました。専門的な知識ばかりを多く学ぶ大学生活ですが，この様な接し方の授業はないため取ってよかったと思っています。あと，個人的な話ですが最後のレポートに先生が返信してくれたのがとても嬉しかったです！今でもメールに付箋を貼ってとっておいてます。これからもよろしくお願いいたします。

私情を挟んで恐縮ではあるが,「お久しぶり」「懐かしく感じた」「今年もよろしく」といったメッセージが多く見られることは大変喜ばしいことである。喜ばしいので予定よりも多めに掲載してしまった。看図アプローチ基盤型の授業は多くの学生に好意的に受け入れられてもらえるという証左になれば幸いである。

このような学生たちに，ビジュアルテキストを主体的に読み解いて，読み解いた内容をグループで共有して，考えを深めて，レポートにまとめる，という授業を繰り返し行った。筆者は授業の多くの時間をビジュアルテキスト読解とグループディスカッションにあてている。第2回目以降の授業の冒頭では，前時のレポートから全体共有したいレポート・優秀レポートを選び紹介する時間を設けている。この授業方法は鹿内（2020，pp.31-40）を参考にしている。全体共有したいレポート・優秀レポートをスライドで示しながら補足情報を伝えたり，解説したりする。このプロセスに出欠確認などを含めて約20～30分要する。つまり，筆者は毎回60分（授業全体の2/3）は看図アプローチ基盤型授業を行っている。1回だけ，ビジュアルテキストに加えて「詩」や「日本語表現」を読解テキストにする回がある。しかし「主体的」「創造的」に学ぶという点で，「教育心理学」としての目標や視点はぶれさせていない。

Ⅲ．期末レポートは看図作文一本！

学習者たちは教育心理学授業において，筆者の代名詞でもある「きゅうちゃん」（例えば石田他2019）や，「魔法使いのおばあさん」（鹿内他2007，鹿内編著2010），「郵便うさちゃん」（鹿内他2008，鹿内編著2010），「飛行機」（例えば鹿内2015）等々，様々なビジュアルテキストの読解をこなしてきた。いったいどれくらい「主体性」「創造性」が育まれたのであろうか。これをはかるのにもってこいの課題を，最終8回目授業の終わりに呈示した。「20枚の絵図」，絵図識別名称「温度差」を用いる。この絵図の一覧は森（2022a）に掲載しているため本稿では省略する。

「通常の『看図作文』では，ストーリーをつくる段階で『協同学習』の時間をとる。（森 2022 a，p.16）」しかし，レポート課題として活用することで協同学習を行えない状況をつくるのである。それにより「自分で考え，自分で表現の工夫をする」ことを促す。このようなことから，「主体性」「創造性」をはかるのにもってこい，であると考えた。

課題呈示の仕方は森（2022a）とほぼ同様である。次のようにすすめる。

①1 グループに 20 枚 1 セットを裏向きに配付する。（感染対策のため座席は大学側で指定している。このためグループ編成は基本的には座席順の 4 人ずつである。当日は座席配置の都合や欠席者の有無によって 3 ～ 5 人グループができていた。グループは全部で 20 個あったので絵図は 20 セット用意した。絵図 1 枚のサイズは A6 サイズ。）
②裏向きのまま 1 枚ずつ順番に引いてもらい，ひとり 3 枚の絵図を取ってもらう。
③「その 3 枚で，看図作文を書いてください。どの絵図の順番で書いたかわかるように絵図の上にある識別番号を明記してください。絵図 1 枚ごとに段落を変えてもらったら順番がわかりやすいと思います。私（石田）も誰にどの絵図がわたっているかわからないので，とにかく，どの絵図の順番でお話が展開していくのかわかるように書いてください。魅力的なタイトルもつけてください。字数は 400 ～ 800 字です。字数は超えても OK です。夢オチなし，ハッピーエンドでお願いします。期末レポートは看図作文，これだけです！創造性と主体性を発揮した作文を楽しみにしています。」と伝える。

学生にとっては期末試験期間が近いタイミングではあったが，3 日で仕上げてもらうことにした。（第 8 回目授業が 7 月 28 日で提出期限は 7 月 31 日 13:00 とした。他科目の試験は 8 月 3 日からというスケジュールである。）なお，2022 年度は第 1 回目～第 6 回目で計 6 回のレポート課題を課した。成績評定はこの 6 回分のレポートと期末レポートによって行った。

Ⅳ．どんな作文が書かれたか

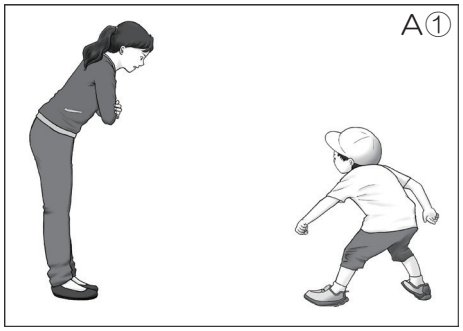
学生たちがどの 3 枚を手にし，どのような看図作文を書いたのか，以下に 26 例紹介する。本来であれば選定（評価）基準を明確化すべきであるが，本稿は実践ノートであるので筆者の主観によって作文を選定した。なお，明らかな誤字脱字は修正した。また，改行位置の調整程度の構成を施した。

学習者 1 の看図作文

タイトル【アイスはどちらの手に！？】

『よし！！このアイスをかけてゲームで勝負だ！』隣の家に住んでる幼馴染の男子の家に遊びに来た。冷凍庫に 1 つだけ残ってたアイスをどっちが食べるか，これからゲームで対戦することに。「あんたなんかに絶対負けないからねー！？」こいつに負けてたまるか，アイスは絶対私のもの！

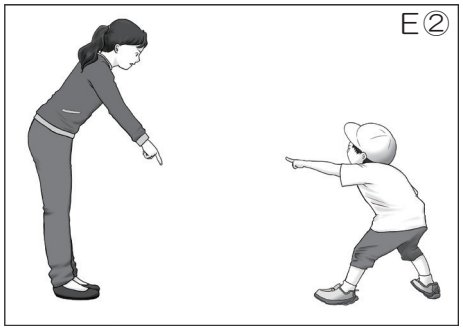
キャラクターを選んで，いよいよ対戦の時。



「あんたそんな子供のキャラクターで戦うの！？弱そう～。」『は！知らねぇんだこれビーム強いの，お前こそそんな弱そうな女のキャラクターで本当にいいのかよ？』「これ弱そうに見えて強いから，私これで負けたことないし！」『ほぇ～ま，俺に勝てるなんて 100 年早いな！』くそ～ムカつくことしか言わないんだから。今に見てなさいよ，アイス食べれ

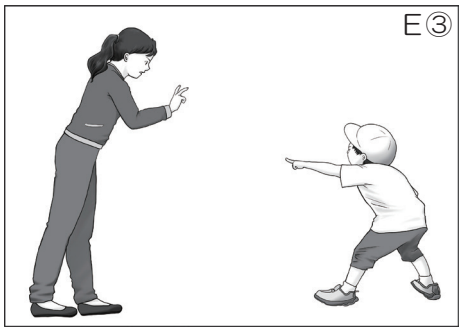
なくて泣いてる未来が待ってるわ！

いざ，開始！『いけぇぇぇ』「とりゃ！！」私には作戦がある。パワーをためておいて，油断したすきに必殺技をかましてやる！



「ビーム！あ，間違えて下にビームしちゃった！」『今だ！ビーム！！』やばい，ビームの方向間違ったせいでやられた！『へっ弱すぎだろ，こんなんで俺に勝とうとしてたのかよ。』きぃぃ～ムカつく！！

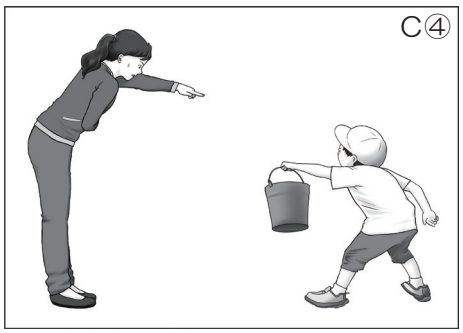
残る命はあと少し。このままだと先に私のキャラクターが倒れてしまう。『俺がビームをしたら一発アウトだな！』ふっふっふ，そんなこと言ってられるのも今のうち。いよいよ"あれ"を披露する時が来たようね。『これでアイスは俺の物！ビーーム！』よし，今だ！「あんたなんかに食べさせるもんか！いけ！必殺技！」



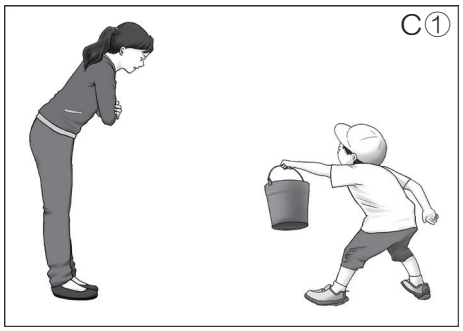
『うわっ必殺技"ピース"！？』－ﾄﾞｵｵｵｵﾝ－…見事逆転勝利！！子供のキャラクターは私の必殺技ピースをくらい，飛ばされていった。「勝ったー！アイスゲットー！」ダッシュで冷凍庫に向かって走る。『くそっ…アイス…』負けて落ち込んでるみたい。「いいでしょ～！ん～美味しすぎる！」戦いに勝った後のアイスは，格別に美味しかった。

学習者２の看図作文

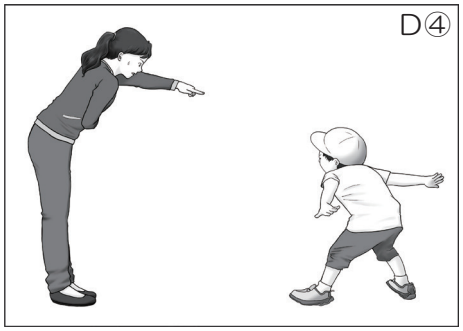
タイトル【それは消せない】



これは放課後の掃除の時間のＡ君と先生の物語である。Ｑ学校の生徒である男の子Ａ君は先生をからかうことが好きで，今日も掃除の時間にふざけて遊んでいました。ほうきで野球をしたり，雑巾を投げていました。そして今度は水の入ったバケツで遊ぼうとした時，先生が来て「Ａ君何遊んでるの！早くバケツを置いてみんなと一緒に掃除しなさい！」とＡ君に言いました。すると，Ａ君は「違うんだよ先生。先生が最近疲れているように見えたから，疲れが吹っ飛ぶようにバケツを使ったマジックを見てもらいたくて，家でたくさん練習してきたんだ」と悲しそうな目で言われたので，先生も戸惑ってしまいした。



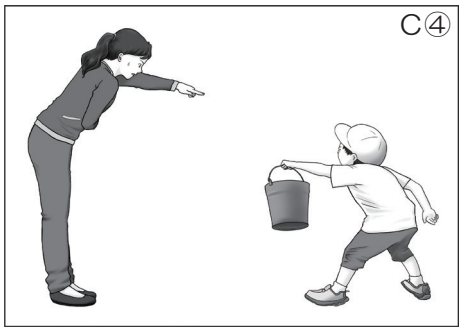
Ａ君の思いを受け取った先生は「わかったわ。それならマジックを見してください！でもみんな掃除してるから，そんなに時間はかけないでね」とＡ君に言いました。「ありがとう先生。では早速，マジックを始めていきたいと思います。このバケツが一瞬にして消えたらすごいと思いませんか？」とＡ君は先生に言いました。先生はＡ君のマジックを夢中で見ています。



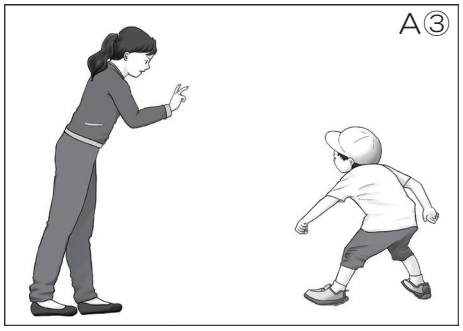
「1.2.3 はい！」なんと A 君の合図の後，本当にバケツが消えてしまいました。先生も子どものマジックだと思って侮っていたため，驚きました。先生は「A 君すごいね！！ほんとにバケツを消してしまうなんて」と言い，その言葉を言われた A 君はご満悦です。しかし，先生はあることに気付きました。それは，A 君の後ろにバケツが転がっていて，バケツの中の水も全部溢れていたことです。先生は「A 君？後ろにあるバケツはどういうことかな？まさかだけど，あれが消えたバケツとは言わないよね？」と言いました。A 君はすぐに逃げて，先生は A 君を追いかけました。先生は A 君を叱ること，そして新たに濡れた床を拭くという仕事が出来てしまいました。マジックでバケツは消せても先生の疲れは消せなかったようです。Q 学校は今日もいつも通りの賑やかな雰囲気で 1 日を終えました。

学習者３の看図作文

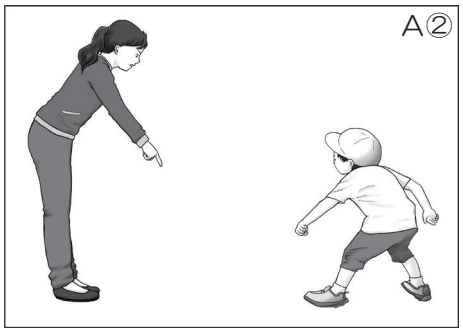
タイトル【幼い恋心】



僕は幼稚園の先生が大好きだ。先生はいつも僕と遊んでくれるし，ダメなところがあれば怒ってくれる。こんな素敵な人はこれから先，現れないと思うんだ。だから僕は，先生に毎日「好きだ」と伝えてるんだ。言葉にしないと思いは伝わらないからね。でも，先生は言うんだ。「大きくなったらもっと素敵な人が現れるよ！」って。僕は先生以上にいい人になんて出会えないと伝えているのに，信じてくれないんだ。だから，先生に僕のいいところをアピールする作戦に変更したんだ。バケツ一杯に泥団子を作って，プレゼントすることにしたんだ。お外遊びの時間全部使ってたくさんきれいな泥団子を作ったから，これを見れば，先生はきっと僕のこと少しは好きになってくれるかなって思ったから。



それで，先生にバケツ一杯の泥団子をプレゼントしたんだけど，先生は喜んでくれたけど，「お部屋の中には入れることはできないから戻してきてね」って，言ったんだ。先生にあげることができなかったから少しショックだったけど，喜んでくれたし，僕が料理もできるいい旦那さんになれるっていうアピールはできたよね！そのあとも先生にアピールをし続けたんだけど，先生はなかなか僕の気持ちを受けとってくれなかったんだ。「あと，二年たったらね」，



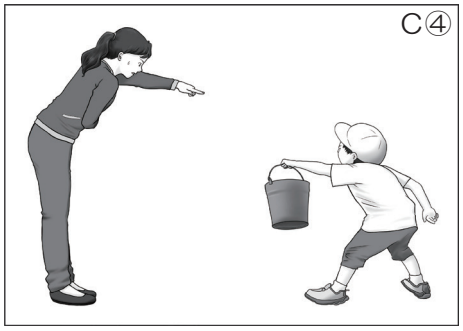
「あと一年たったらね」って。そうやって僕が幼稚園を卒業するまで延ばすんだ。先生

は僕が大きくなったら，先生じゃない人を好きになるって言っていたけど，どれだけ大きくなっても僕は先生のことが大好きでいられる自信があるんだ！それはね，僕がお友だちと喧嘩しちゃったときにほかの先生は僕が悪いことをしたんだって，決めつけてきたのに，先生だけが僕のお話を最後までちゃんと聞いてくれたんだ。その時に先生が大好きになったんだ。だからこれからも，毎日先生に「大好き」って伝えるからね！先生が好きになってくれるまで，僕，頑張るね！

学習者４の看図作文

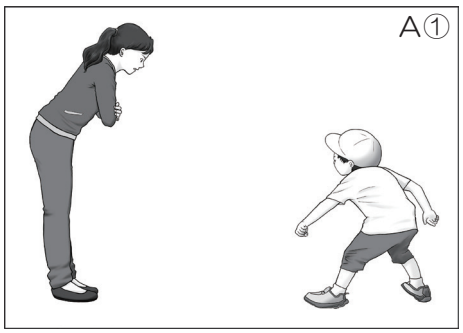
タイトル【怒りっぽいひろみ先生】

これは幼稚園児ときれい好きで怒りやすいひろみ先生の考え方が変わった１日のある一部分を物語ったものである。

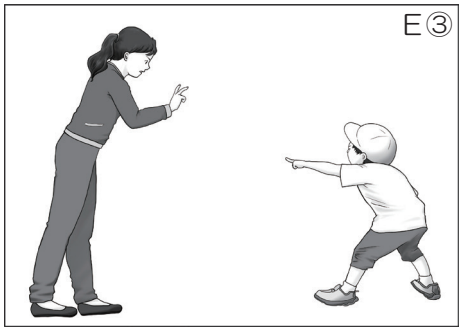


今日，〇〇幼稚園は１日中数字や日本語のお勉強はなく，ただただお外でお友達とたくさん遊ぼうという予定の１日でした。あっちでは砂遊びこっちでは鬼ごっこ，ボール遊びなど自由に遊んでおり，ひろみ先生は疲れていました。そんなところに年中さんたちのひまわり組のりょうまくんがどうやら今日は絶対怒らないと決めていたひろみ先生のところに走っていったみたいです。

「ひろみ先生，見て見て見て，こんなにいっぱい虫を捕まえたんだよ。」「こｒ,,」（危ない危ない怒るとこだった。）「りょうまくん何こんなにたくさん捕まえてきたの？」「まず，ダンゴムシでしょ，ミミズでしょ，ありでしょそれ以外もいっぱい捕まえてきたよ。」（どうしたら優しくできるかな，そうだ，褒めながら手を洗うよう勧めてみよう。）



「すごいね，こんなにたくさん虫さん捕まえてきて！でも，こんなにちっちゃいところに入れられちゃったら可哀想じゃない？虫さん逃してあげてひろみ先生と砂遊びしない？」「するする！」（りょうまくん虫を逃す）「そしたらひろみ先生りょうまくん手がきれいな方が嬉しいな，手洗って来れるかな？」「はーい，わかったよひろみ先生。」数分後,,（りょうまくんやけに遅いなあ，もしかして手洗わないで遊びに行っちゃったかな。）数10分後,,（ひろみ先生ーっと大きな声がした。）「また，りょうまくんの声だ。きっとまたいっぱい汚れてくるんだろうな。」

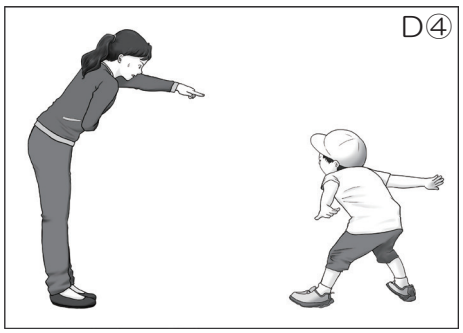


「じゃーん！手も顔も足もきれいにしてきたよ！」「本当だ偉いねりょうまくん！ちゃんときれいにできたんだね！」「ひろみ先生，ピース！」「ほんとに偉いね」（ひろみ先生もピースをする。）「ひろみ先生砂遊びしよう。」「うん，そうしようか。」

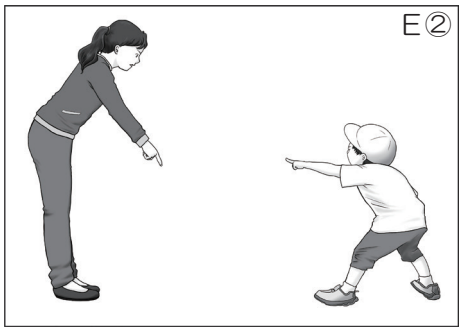
こうして，ひろみ先生はただ怒るのではなく子供の行動を否定しないで正しい行動に導くということの大切さを学んだのでした。

学習者５の看図作文

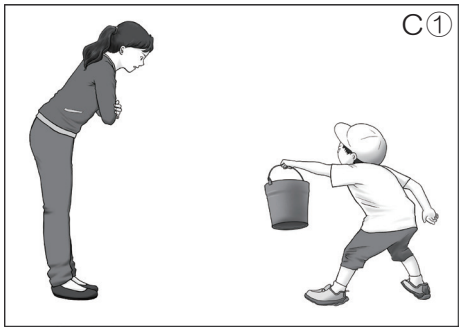
タイトル【波乱な運動会】



今日は待ちに待った運動会である。この日のために子供達はもちろん，私達教師も沢山準備してきた。無事に終わるといいな！今は3.4 年生の 50m 走。一生懸命走ってるな～！皆輝いてるよ！…あれ，誰かこっちに向かって走って来てるような…。あれは…太郎くん！？何かあったのかな？「太郎くんどうしたの！？怪我し…てなさそうね。ゴールは向こうだよ！」「だってどうせビリなんだから寄り道しても変わらないでしょ～へへっ！」まあ，確かにそうだけれども。「ほ，ほら！ゴールする事に意味があるって言うじゃない？太郎くん先生と一緒にゴール行こっか！」「え～，ビリなんだしいいじゃーん。」



ふう，何とかゴールした…。やっぱり１度ビシッと言った方がいいよね。「太郎くんちょっとこっち来よっか！いい？ビリでも最後まで走ったら太郎くんのパパとママ喜ぶと思…」「あ！パパとママだ～！」って聞いてない。折角の運動会で怒るのもなあ。「そ，そう！パパとママが見てるから最後まで頑張ろっか！！ね，太郎くん！」「うん！最後まで頑張る～！」ん～，これでよかった…のかな？



運動会も終盤になってきたな～。3.4 年生最後の種目は借り物競争だ。次は太郎くんの番。お願い，無事にゴールまで走りきって！お，いいよいいよ！カード何引いたんだろう。バケツ持って走った！よし！１位だよ！…ん？何故方向転換！？なんでこっち来ちゃうかな。「太郎くんどうして１位だったのにこっち来ちゃうの。ゴールしないと！」「だって先生とゴールしたかったんだもん！」「え！？そ，それなら行かないと！今ならまだ３位目指せるよ！行こう！」危ない…3 位になれた！今日は太郎くんに振り回される１日だったなあ。

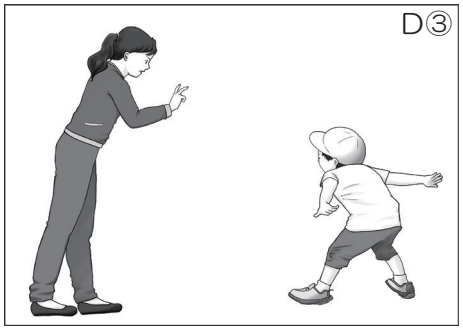
学習者６の看図作文

タイトル【優しさと出会い】

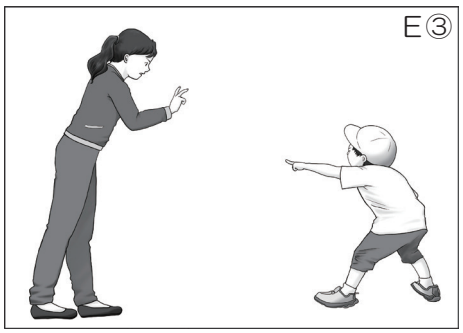
今年１年目の先生と素行の悪い生徒がいました。先生は１年目ということもあり，生徒から舐めた態度を取られ悩んでいました。自分に向いている仕事かどうか，やめようかまで考えていました。素行の悪い生徒はいつも先生を挑発ばかりしていました。

例えば，先生が２つ持ってきてと言ったバケツを１つだけ持って来て困らせたり，バケツを持ってきてくれる日はいい方ですが，掃除に参加しなかったり，勝手に帰ってしまっ

たりしていました。先生は毎回頭を抱えていました。そんなある日，体育の時間に野球をしました。



その生徒は自ら審判を教えて欲しいと言ってきました。珍しいことでとても不審に思いましたが，積極的な姿が見れたのは初めてだったため，とても喜び，試合を通して教えました。生徒は審判を，先生はアウトの数などを数えていました。試合は終わりに近づいてきました。

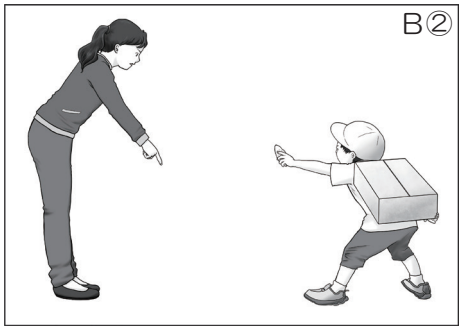


すると生徒は急に先生の方を指さしました。先生はふざけているのだと，注意を促しましたがやめる様子がありません。そして，生徒は「危ない」と叫び先生にぶつかってきました。先生は何が起きたのかさっぱり分かりませんでした。すると，近くにバットが降ってきました。バッターの子が勢いよく走り出した際に，バットをぶん投げてしまったのでした。先生は生徒に感謝の気持ちを伝えました。すると生徒は照れくさそうに，「俺はやるべきことやっただけ」と言って走っていきました。

その後，2 人はとても大きく変わりました。先生は生徒の優しさにもっと頑張ろうと思えるようになり堂々とするようになり，今では生徒からも先生方からも信頼されるそんな素敵な先生となりました。生徒の方は先生の喜んだ顔を見るために，なんでも積極的に参加するようになりました。

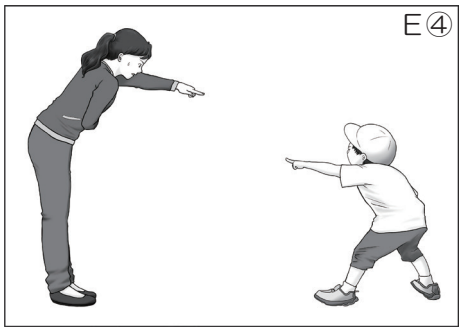
学習者 7 の看図作文

タイトル（記載なし）



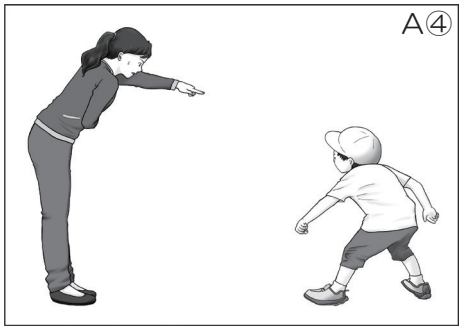
「こら！その荷物！！一体どこからとってきたの！」背中に大きなダンボール（笑）を，手には貝殻なのかスリッパなのかよく分からないものを持った少年 A が女性教諭に注意されている。「うるせぇ！先生こそそんな靴で体育出来ると思ってるのか！」こいつァすげぇ。幼き少年はもう反抗期を迎えているようだ。それにしても少年にしてはいい着眼点である。「ピーチクパーチクやかましい！もういいです。10 点減点しますからね！」

このセンコーはいつもいつも点数を引いてくる。うんざりだ，昨日だってこっそりコーラを飲んでいたところを見つかって 20 点減点された。飲み物への恨みでもあるのだろうか。そんなことはどうでもいい。このピンチどう乗り切るのか。



少年はおもむろに懐から懐中時計のようなものを取り出し針を 1 回ほど巻き戻したようだ。少年は先生に向かって指を指し「時は動

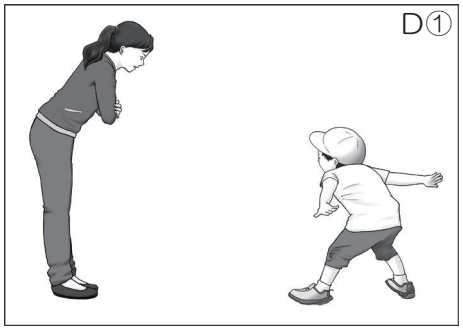
き出す」となんだかかっこよさげなセリフをいいはなった。次の瞬間女性教諭は次に起こることがはっきりと見えた。しかし，何度見ても少年に逃げられる未来ばかり。



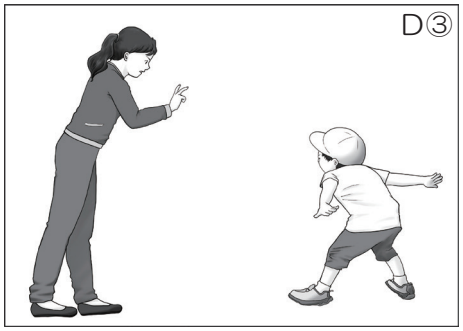
「ど，どういうことなの，，？」困惑する先生。「終わりのないのが終わり，，」と意味深なセリフを言いながら暗闇に消えていった。追いかけようとした瞬間また，同じ場所に戻ってきていた。（冒頭に戻る）

学習者８の看図作文

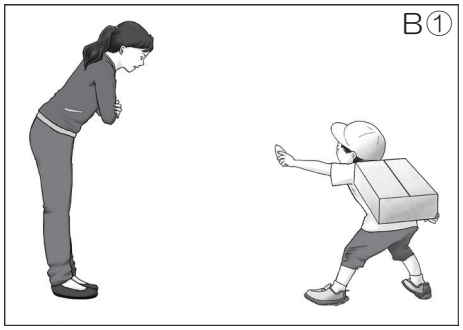
タイトル【くせがつよいんじゃー】



肌寒くなってきた日，小学校の外での体育の授業後教師と生徒がモノマネごっこをしていました。「一発で当ててやったぜ！次は俺のターン！」と生徒が挑戦的に言いました。先程，体育の授業を真面目に受けていなくてしかったはずなのに，そんなことも忘れてたように純粋な瞳で先生を見つめてくるのでした。そんな眼差しについ「望む所よ」と先生が答えてしまいました。生徒は低姿勢で後ろに両手を広げるポーズをとりました。「分かったわ！鳥ね」「うーん，空を飛びたい人」「違うー」２～３回当てはまりそうなものを答えてみましたが，先生は分かりそうにありませんでした。



「もう二つくらいヒントを頂戴」仕方ないなと生徒はポーズを取り，つぎは声付きでモノマネをしました。「コレがあれば，取り敢えずダイジョーブ！」先生は混乱するばかりでした。これは最近のお笑い芸人のモノマネなのだろうか？それだと最近はテレビを見てないから分かりそうにないなぁと先生が心の中で思いながらも当てはまりそうなものを言いました。「クリームコロッケのネタ！」と答えると何だよそれと生徒に変な顔で見られた。これがジェネレーションギャップと思いながら先生は諦めかけていました。

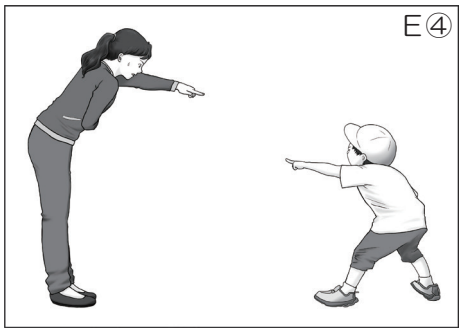


「先生は想像力にかけてるね」と若干小馬鹿にした感じでやれやれとポーズをとった。先生は少し前かがみ気味の姿勢になり，殴ったろかと教師の立場でありながら手が出そうになったが，相手は小学生，ムキになったら負けよと心の内で解決させた。最後のヒントがあるので，それを見て先生は答えを出すことにしようと決めました。すると，どこからか段ボールの箱と石を持ってきて，段ボール箱は背中に，石を左手に持ちながら，先程のネタを言いました。先生は答えが分かりませんでした。「答えを教えて」「仕方ないな，これはね希望に満ち溢れた原始人のモノマネ！」

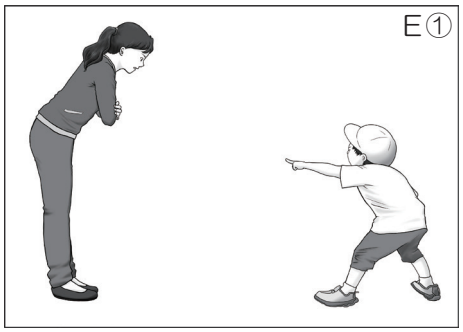
答えを聞いて先生は思いました。「くせがつよいんじゃー」

学習者９の看図作文

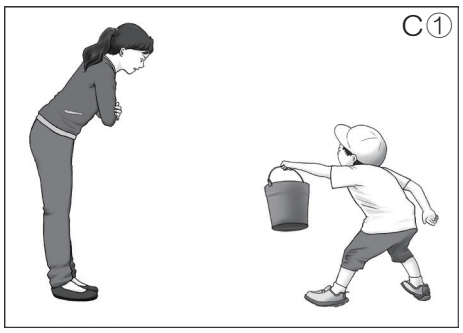
タイトル【幻のドジョウ】



ある日少年は先生に向かって，「あっちの川に沢山ドジョウがいて，その中に金色のドジョウがいるから見てきてほしい！」と言ったところ，先生はドジョウがいるのはそっち側の川じゃなくて，あっち側の川だよ！と，言いました。少年は，「本当にいたんだ！この目で見たんだ！」と言うものの，先生は全く信じてくれませんでした。そこで少年は，「ならもう一回見て確かめてくる！」と言い放ち，先生が指を刺した方向とは逆の川に走って向かいました。そして川の中を確認した少年は，先生のところに戻ってきて，こう言い放ちました。



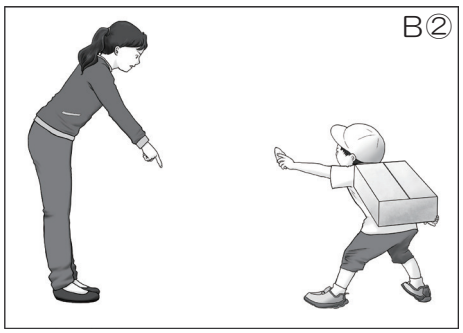
「やっぱり金色のドジョウがいる！しかも２匹だ！！」と。先生は呆れて少年に，「本当にいるの？」と尋ねました。少年は「うん！ほんとにいる！」と言いました。先生がなぜこんなにも疑うのかと言うと，深い理由がありました。先生も昔から金色のドジョウを探していて，今まで１回も見たことがなかったのです。先生は放課後も，休みの日も友達と河川敷などを巡って，金色のドジョウを探していました。しかし，今まで１度も発見したことがない金色のドジョウを少年が見つけるなんて考えられなかったのです。しかも２匹も！先生は少年にこう言いました。「ならその金色のドジョウを取ってきてよ！」と。少年は「わかった！」と言い放ち，花に水をあげる用のバケツを手に取り，川に一目散に走っていきました。そして，少年はバケツを持って先生のところに戻ってきました。



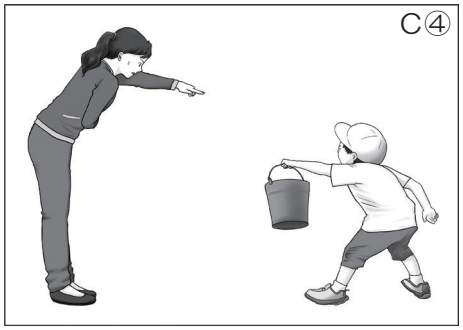
戻ってきた少年のバケツを見て，先生はびっくりしました。少年が手にしているバケツの中に沢山の金色のドジョウがいたのです。先生は驚きと感動を隠せずにいました。少年はとても興奮して，他の友達にも見せてくる！と言い，公園へ向かいました。先生は初めて金色のドジョウを見れて，とても嬉しい気持ちになり，少年も自分で取った金色のドジョウを先生に信じてもらえて，とてもハッピーな気持ちになりました。

学習者 10 の看図作文

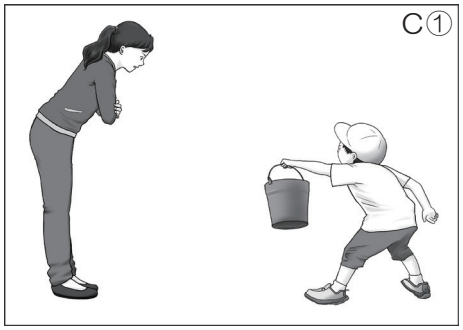
タイトル【２人の成長】



ある日の放課後，環境係である小学三年生の太郎君とクラスの担任である花子先生の話である。太郎君はクラス１の元気っ子，花子先生は学校１のまじめ先生と言われている。放課後になり先生は太郎君と一緒に水やりをするために少し早めに行って，太郎君を待っていました。そこにバケツを持ってくるように指示していた太郎君はやってきました。しかし，太郎君の手にはバケツはなく，左手にはそこらへんで拾ったとされる石，右手には何のためかわからない段ボールを背中で抱えるように持っていました。花子先生は，少し厳しめに「バケツを持ってきてここにあるお花たちに水をあげないとダメでしょ！なんで素直に水をあげてくれないの！」と注意をしました。すると太郎君はすぐさまバケツを取りに行きました。



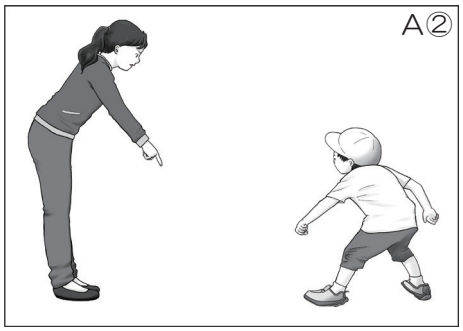
太郎君はバケツを持って戻ってきました。花子先生は少し安心したのも束の間，バケツの中に水が入っていませんでした。太郎君は「だって先生バケツを持ってくるように言っただけで，水を汲んできてなんか言ってないもん！」と反論しました。先生は少し焦った表情を見せながら，「確かにそうね。じゃあ向こうの蛇口を使って，水を汲んできてくれるかしら。」と言いました。太郎君はまたすぐさまバケツを持って移動しました。



太郎君は水を満杯に汲んできて，どうだと言わんばかりのどや顔で花子先生に見せつけました。学校１まじめで，普段笑顔を見せないとされている花子先生も思わずこの様子に笑ってしまいました。そして少し真面目な表情に戻り「次からは一度でちゃんと持ってくるのよ。」と１回目に比べてとても優しく注意してくれたのであった。この一件を機に，太郎君は騒ぐときは騒ぐ，しっかりするときはしっかりするといった，メリハリをつけれる子に成長しました。花子先生も，真面目なところは変わらなかったが前とは別人なほど日常生活で笑顔を見せるような魅力的な女性になったという。めでたしめでたし。

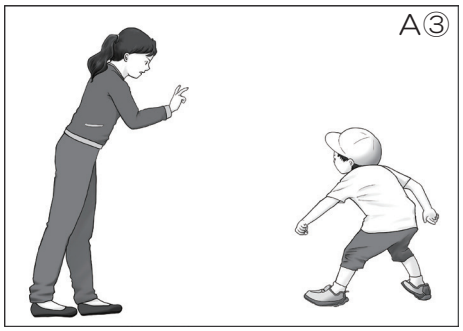
学習者 11 の看図作文

タイトル【勇敢な男の子と奇跡】

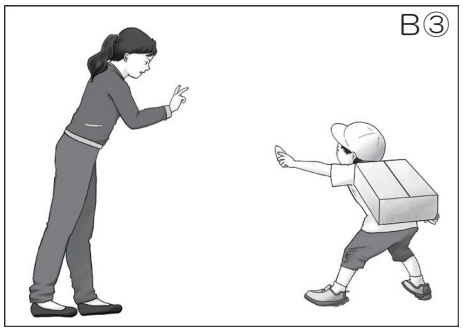


ある日のとある小学校の遠足中の出来事です。お昼休憩が終わり，担任の先生が全員生徒がいるか確認しました。生徒は 23 人です。「21，22。。。１人いない！」先生は驚きを隠

せず慌てて辺りを見渡しました。しかし，この辺りは森の中で辺りを見渡してもどこにもいません。その時，ある女の子の生徒が「さっきＡくんがあっちに走っていきましたよー」と言いました。先生は他の生徒たちをその場で待機するよう指示し，女の子が言ってた方向へと走っていきました。しばらく走ると，その先には洞窟のような場所がありました。覗いてみると，急にＡくんが飛び出してきました。先生が「なにしてるの！？帰るよ！」というとＡくんは無言で涙目になっています。Ａくんはいつもと違って何かを守るようにして，先生を絶対通さないようにしていました。普段とてもおとなしい性格のＡくんがとても強気になっていました。



しばらくしてもＡくんは喋りません。なにも喋らないＡくんに対して先生は「もう帰るよ。言うの２回目だよ」と言うと，Ａくんは「先帰ってていいよ，後で行くから」と後ろを気にしながら言いました。先生はその行動を見逃さず後ろを見てみました。

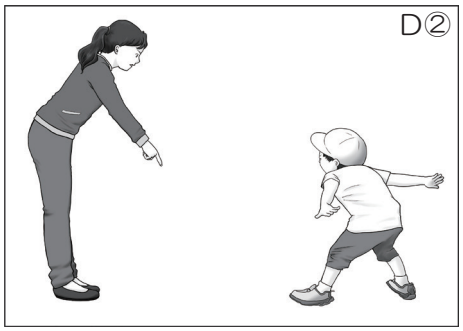


すると，すぐそばに段ボールが置いてありました。先生はそれに気づくと，Ａくんは慌てて段ボールを背負い，石を持って先生に反抗しました。先生はもう時間がないので石を奪い，段ボールの中身を見せてもらいました。するとそこには猫の赤ちゃんがいました。しかし，猫は足に怪我を負っていました。Ａくんは猫の鳴き声に気づき，いなくなったのです。Ａくんは泣きながら「お願いだから助けて！」と言いました。

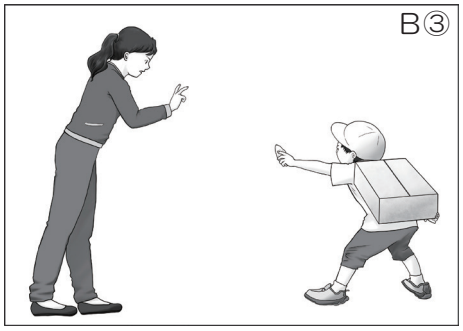
そんな危機的状況の中，先生が急に走り出してしばらくして戻ってきました。先生は応急処置用の救急箱を持ってきていたのです。さらに先生は獣医師の資格も持っていたのです！先生は応急処置をして猫は無事に助かり，みんなで仲良く帰っていきました。

学習者 12 の看図作文

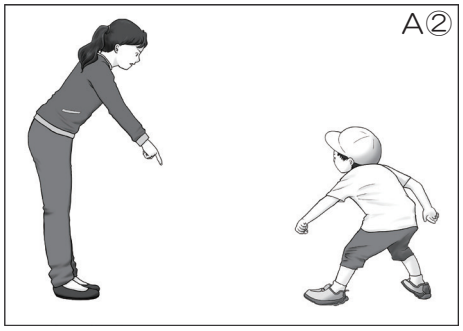
タイトル【大人の階段を昇る，のぼる君】



「先生ー」と全速力で先生のもとにやってきたのは，のぼる君。とてもやんちゃで元気な子です。先生のもとに全力で走っていき急に止まったのですごい砂ぼこりが舞って今日も先生に注意されました。のぼる君は突然両手を大きく広げ「セーフ」と言いました。先生が「なにそれ？」と尋ねました。のぼる君は野球の審判の真似だと答えました。昨日のオールスターゲームを見て，どうやら野球が好きになったようです。



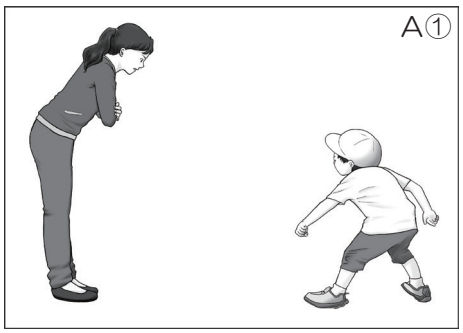
次の日，のぼる君は段ボール箱と石ころのようなものを手にして先生のもとへやってきました。今日は何を言い出すのかと思ったら，「先生，早く小学生になりたい」と言ってきました。先生は冷静に「それは分かったけど，その箱と石ころはなに？」と聞きました。するとのぼる君はランドセルと防犯ブザーと答えました。先生は防犯ブザーをチョイスした，のぼる君に笑ってしまいました。「でも小学生になるまでは二年あるでしょ。それにもっと，大人の人のいうことを聞かないと小学生にはなれないよ」と伝えました。



また次の日，今日も元気にやってきたのぼる君は左手に何かを持っているようでした。先生は「のぼる君，左手に何隠してるの？」と聞くと，「虫！」元気に答えました。先生は汚いから捨てなさいと言いましたが聞かない様子です。先生は「小学生になりたいんじゃないの」というと，のぼる君はハッとして虫を捨てました。これで大人の階段を一段のぼった，のぼる君でした。

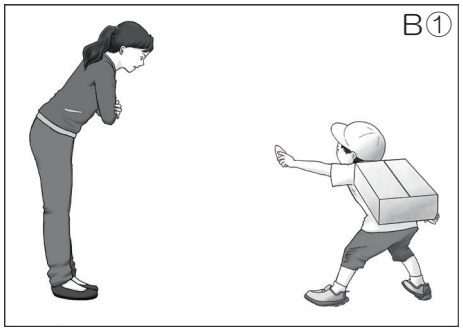
学習者 13 の看図作文

タイトル【石拾いの徹くん】

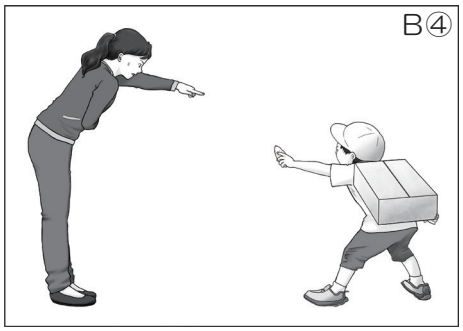


石集めが趣味の徹くんは学校帰りに毎日河原へ行って石を拾って，お気に入りを見つけてはダンボールの中に入れてコレクションをしていました。徹くんはおとなしい性格であまりお友達と話すことが得意ではなく，学校の教室では馴染めずにいたため，学校はサボり気味で毎日遅刻をしたり時には休んだりを繰り返していました。サボる時のお気に入りスポットは学校に行く途中にある河原でした。河原には沢山の石ころが落ちていてまさに時間潰しには最高のスポットだったのです。この日は昼ごろまで石を段ボールに集め，そこに段ボールを置いて行くわけにはいかないので学校に石を詰めた段ボールを持って登校しました。学校に着くと校門は閉まっており開けるためには先生をインターホンから呼ばないといけません。しかし呼んでしまうと段ボールの存在がバレてしまいます。

徹くんはある計画を思いつきました。その計画というのはまずどこかに段ボールを隠し，インターホンで先生を呼んで門を開けてもらってから走って段ボールを取りに行って全速力で門を突破する作戦でした，しかしいざ実行してみるとインターホンを押すと担任のさよ先生が怒り気味に歩いてきたではありませんか。そんなことは想像しておらずしかも段ボールを隠した一連の流れも見られていたため，段ボールを取りに行くように指示されました。



しかし怒られるのが嫌な徹くんは段ボールの中で１番鋭かった石を取り出し威嚇しながら先生に挑みました。しかし先生は頭ごなしに徹くんを叱り，徹くんは話を聞くのが嫌で左から右に聞き流していました。何を言っても返事をしない徹くんにさよ先生は少し焦り，冷静になると頭ごなしに１人の生徒を叱り続けることにかわいそうだと思ってしまい，その日は許して学校のなかに入れてあげました。



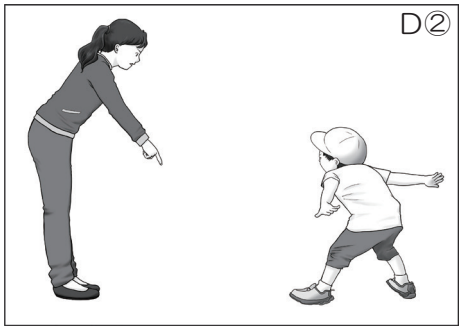
徹くんは段ボールを持って教室へ向かうと，その叱られている一連の流れを学校の中から見ていた教室のお友達たちは先生に反抗して威嚇までしていた徹くんの勇気ある行動に感心し，徹くんの弱々しく貧弱なイメージから強く勇ましいイメージに変わったのです。その日を境に，徹くんは友達ができ，学校に毎日通うことができるようになりました。

学習者 14 の看図作文

タイトル【始めの一歩】

「位置について，よーい，ドンッ！」

太陽がジリジリと暑い。来月に控えている運動会に向けて，球小学校ではかけっこ練習が始まった。かけっこは全員参加する種目で，運動会で最大の盛り上がりを見せる紅白対抗リレーに出場するための選手を２人決めるタイム計測が来週行われる。リレーの選手になりたい生徒は多く，みんな練習に気合いが入っている。そんな中，いつまで経っても走り出さない生徒がいた。

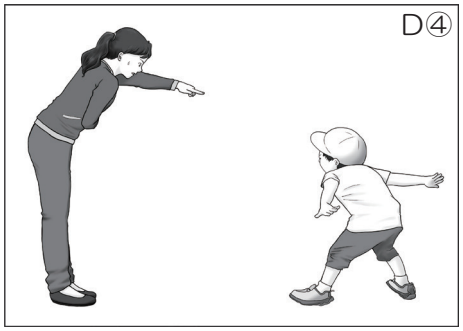


先生「ほら，みんなもう行っちゃったよ。球輔も走りなさい。」

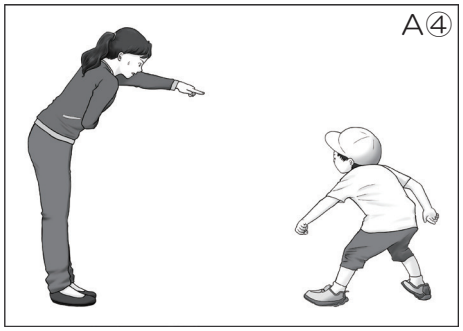
球輔は走ることができない。走るのが大好きで足が速かった球輔。去年の運動会まで恒例のようにリレーの選手に選ばれていて，白組のチーターと呼ばれていたくらいだ。ある日の放課後。いつものようにみんなで大好きな鬼ごっこをしていたのだが，足を思いっきり捻ってしまい骨折をしてしまった。初めての怪我，手術，リハビリ。症状は重くなく，半年でなんとか歩けるようになり，球輔は走れるはずだが走ることに恐怖を抱き走ることができなくなった。

球輔「アリさんたちが列を作って歩いているんだ。踏んだら困るから走れない。」

そんな嘘をついて意地でも走ろうとしない。



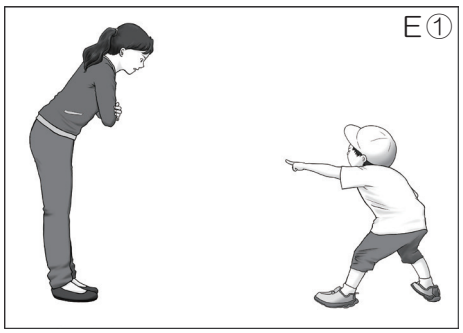
先生「じゃああっちに移動して走ろう。」
球輔「重力が強すぎて足と地面がくっついちゃったから走れない。」
　走りたくない球輔は粘り続ける。先生は球輔を抱っこしてひょいと持ち上げ地面から足を離して見せる。
先生「ほら，これで走れるでしょ。」



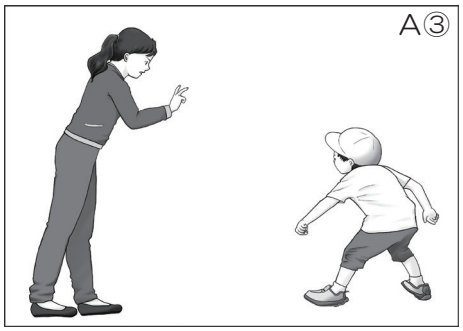
球輔「先生にジャンケンで負けたら走る。」
　そう言って球輔は拳を握りしめ断固拒否。先生はかけっこをやめ，鬼ごっこをすることにした。大好きな鬼ごっこに球輔は目が輝いた。友達の球大に一緒に逃げようと誘われ，怖かった走ることに対して始めの一歩を踏み出したのだ！走る楽しさを思い出した球輔。嫌なことでも友達と楽しみ，勇気を出して始めの一歩を踏み出せば，できなかったこともできるようになるのだ。

学習者 15 の看図作文

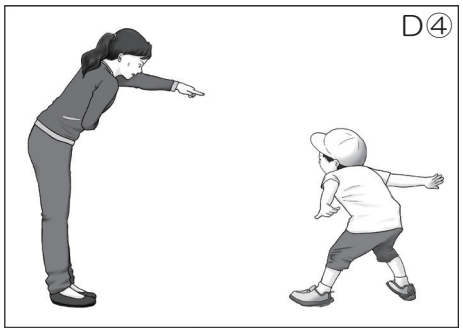
タイトル【ジャンプ！！】



「今回の体育の授業は走り幅跳びと言われる競技を行います。」この先生の声掛けで授業が始まりました。しかし，生徒の翔太君は先生の説明よりも目の前の砂場に興味深々です。翔太君は先生に話を聞くようにと軽いお叱りを受け静かになってから，先生は走り幅跳びの説明を始めました。



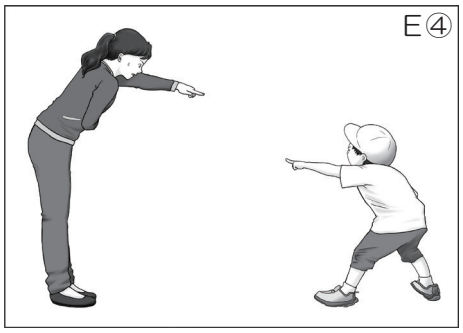
「走り幅跳びは助走をつけて，砂場の手前にある白い線でジャンプをして砂場に着地する競技です。では早速始めますが誰からやりたい？」ということで好奇心旺盛な翔太君は早速立候補し，一番最初にやることになりました。スタンディングスタートの姿勢になった翔太君に先生は「２回計測するからね。」と伝えました。



走り始めた翔太君に対して，先生は指をさして「この線でジャンプ！」と言い，その声と同時に翔太君も大きく腕を振りかぶってジャンプしました。完璧なタイミングで飛んで，飛距離もかなり伸びて無事に着地と思いましたが，足をついた瞬間バランスを崩して後ろ側に転んでしまいました。ですが記録が大幅に減少してしまったショックよりも，全身砂だらけなのが面白くなり，翔太君も周りのクラスメイトも大爆笑してしまいました。これにはいつもまじめな先生も笑ってしまい，今まで険悪だった雰囲気が一気に楽しい雰囲気に変化しました。

学習者 16 の看図作文

タイトル【Nakamura family rain leak case】



北海道札幌市にある仲睦まじい家族の中村家で起きたある事件の話である。今日は地球誕生史上，過去最大の台風が北海道の上を通過すると大きなニュースになっていた。朝から外は大量の雨がザーザーと降り続いており，道路が冠水し始めてきている。そんな中，中村家では事件が起きた。

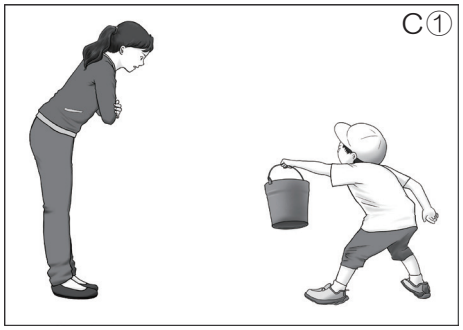
大輔「お母さん！あっちの天井から水がポツポツと垂れてきて，大きな水溜まりができているよ。部屋の中にプールができちゃいそうだよ！」

お母さん「あら，本当だ，雨漏りしてるじゃない。ほら，あっちにも水溜りができてるわよ。そんな呑気なこと言ってないで，急いでバケツ持ってきて受け皿にしないと！あの赤色のバケツ持ってきて頂戴，大輔！」

大輔「うん！わかった取ってくる！」

ドタドタドタドタドタ

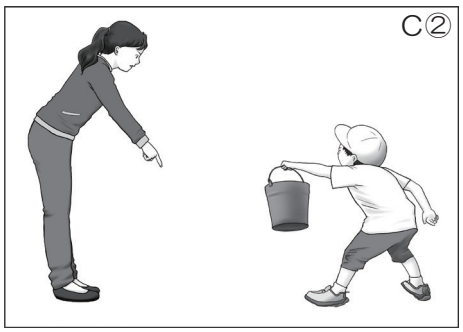
お母さん「走ったら怪我するからゆっくり行きなさいよ。」



大輔「お母さん持ってきたよ！ほらこれ，青色のバケツ！こっちの方が大きいし沢山入るかなって思って青色にしたよ。」

お母さん「お母さん赤色って言ったでしょ！その青色のバケツは大きいけど底にヒビが入ってるから水が漏れちゃうのよ。それじゃ水が溜まらないでしょ！」

大輔「本当だ，ヒビがある！昔僕が壊したんだった。赤色のバケツ持ってくる！」



大輔「次こそは赤色のバケツ持ってきたよ！」

お母さん「ありがとう，大輔。そしたらまず，ここの雨漏りが一番酷いからここに一つ置こうかな。そして，次はあそこに置こうかな。」

大輔「バケツ一つしかないから，全然足りないよ！」

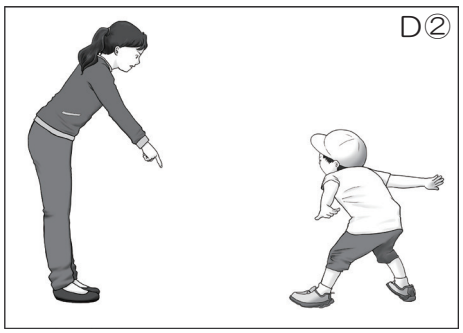
お母さん「一つしかなかったっけ！そしたら，お母さんと一緒に買いに行こうか！」

大輔「やったー！行く行く！」

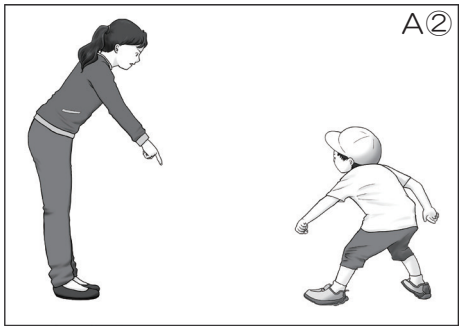
大雨の中，買い物に行きバケツを複数買って，中村家の雨漏り事件は収まりましたとさ。

学習者 17 の看図作文

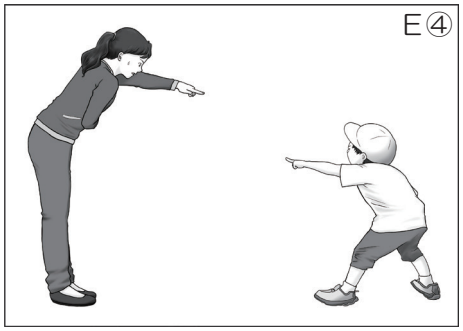
タイトル【愛すべき夢と理想と現実を】



「きぃいいーん」元気な男の子の声が園内に響きます。「こうた君，やめなさい！そんな走り方して怪我したらどうするの！？」新米保育士のまりは両腕を広げて飛行機のように走り回るこうた君を叱りました。「他の子達にもぶつかったら怪我させちゃうのよ？」対するこうた君は「えーだってぇ,たのしーんだもん」と唇を尖らせて言い訳。「だってじゃありません！」全く反省する様子のない態度に，まりは怒ります。



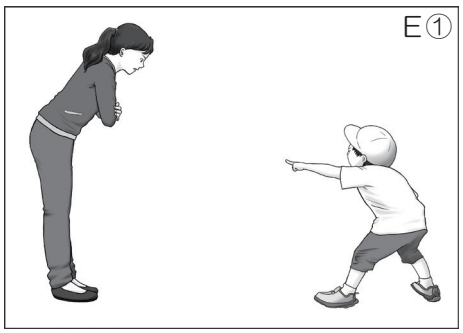
どうにか冷静に「…とりあえず腕を下ろしなさい」と伝えましたが「じゃあせんせいもやってくれなきゃやだ！」と駄々を捏ねるこうた君，仕方なく腕を降ろすとこうた君は渋々腕を降ろし…途中何を思ったか勢いよくまりに向かって指を差しました。



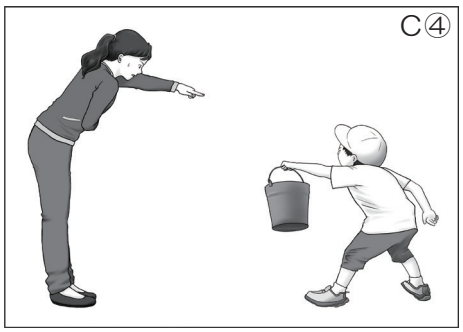
これにまりはカッとなり「こら！人に指を差さないの！！」と激怒，しかしこうた君も負けじと「せんせいもさっきからゆびさしてるのに！！」と大声で言い返しました。2 人の大声は園中に響き渡りついに園長先生まで出てきてしまいました。事情を聞いた園長先生はまりに隣の部屋で頭を冷やすように言い，大声で怯えてしまった他の園児達のケアを他の保育士に頼みました。まりは自分はなんて身勝手な人間なのだろうこんな人間に保育士が務まるはずがないと泣きながら思い，退職届を出そうと考えました。その時小さなノックの音が…涙を拭って返事をするとそこにはこうた君がいました。驚くまりにこうた君は「ごめんなさいまりせんせい…」と小さな涙声で言いました。まりは「ううん，私こそごめんなさい」とこうた君の目線に合わせて言いました。ポロポロ泣きながら抱きついてくるこうた君の頭を撫でていると先程怯えさせてしまった園児達も皆「まりせんせぇ…」とまりの周りに集まってきます，顔を上げると園長先生達が静かに見守ってくれていて，まりはやっぱり私は保育士でいたいなと心から思ったのでした。

学習者 18 の看図作文

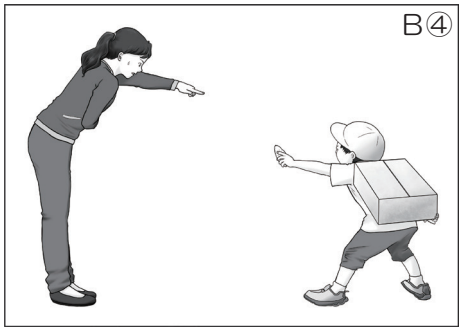
タイトル【一体何者！？】



私はこの学校の教員だ ...。そして生徒たちを見守る存在。「先生！！あれ何！！」一人の生徒が指をさした。名前は高橋久人。この生徒はクラスの中でも少し変わっていて，幽霊が見えると自称しておりよく何もない場所に向かってしゃべっていたり，今回のように指をさしているらしい。しかし，私は知っている。彼はいたずらをしているだけなのだ。「こらっ久人くん！いたずらするのはやめなさい！」「だって先生あそこにいるんだよ」まだ彼は一生懸命に指をさしている。「そんなことしてないで教室清掃に戻りなさい」



ガチャンッ。ババッ。久人は急に自分のそばにあったバケツを持ち上げた。恐らく掃除をやらせようとしているのだろう。「自分でやらなきゃ意味がないでしょう」「だって，，，」「早く掃除に，，，」タッタッタ。久人が走っていく。掃除をしに戻っていったのだろう。最後までしっかり話を聞いてほしいんだけど。

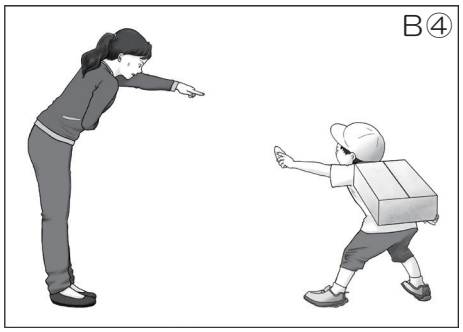


トコトコトコ。バッ。「っ！？ちょっと久人君何やってるの！！」彼は廊下に置いてある，給食ワゴンから持ってきたであろう箱を背中に背負っている。そして彼の手にはその箱から出したコッペパンが握られている。「いい加減になさい！」「でも，，，」「早くそれを戻してきて，掃除に戻りなさい！」さすがに度が過ぎていたため久しぶりに真剣に怒った。トボトボトボ。さすがに懲りたのだろう。うなだれながらワゴンに箱を戻しに行っている。「はぁ。全く困ったものね。まさか私が見えてるなんて」私はこの学校の教員だった。そして生徒たちを見守る存在。

学習者 19 の看図作文

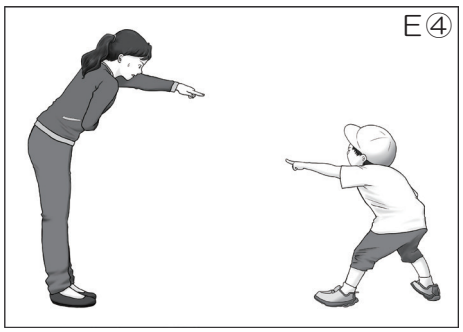
タイトル【お手伝い大作戦】

これはお母さんにとってのある朝の三兄弟との戦いです。

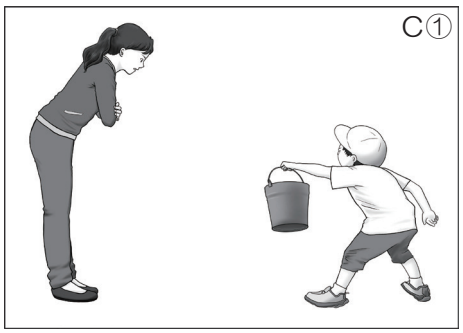


ある日の朝，お母さんは 1 番下の弟のタケシに「あそこにあるバケツを取ってきて」とお願いをしました。すると，元気よく「お母さんちょっと待ってて！」という返事がありました。お母さんはちゃんと持ってきてくれると期待をしながら待っていました。するとタケシが持ってきたのは，，，「見てお母さん！

昨日見つけたセミの抜け殻だよこの箱に昨日から入れて取っておいたんだ」と学校の帰り道に拾ったセミの抜け殻を持ってきました。一方で，虫が大嫌いなお母さんは「そんなもの持ってこないでよ！」とかんかんに怒りました。タケシはちょっぴりしょんぼりしながら部屋に戻りました。



次にお母さんは真ん中のケンタに頼むことにしました。頼まれたケンタは悪戯大好き少年。その為, お母さんが「バケツを取ってきて」と言うと，真似するように「バケツを取ってきて」と悪戯顔でおうむ返しをしました。当たり前のように怒られました。そしてケンタは納得いかないなという顔で部屋に戻っていきました。

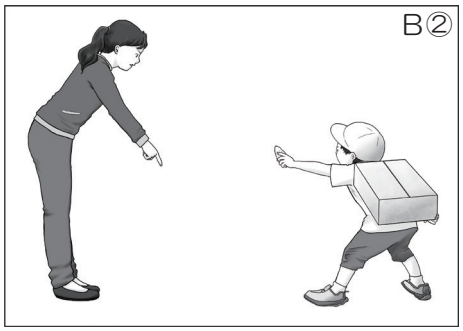


呆れたお母さんは諦めて一番上のカンタに頼みました。カンタは一つ返事で，すぐバケツを取ってきてくれました。カンタは「お兄ちゃん偉いね，ありがとう！」とお母さんに言われました。その様子を見ていたタケシとケンタ。褒めてもらうお兄ちゃんのことを見た弟 2 人は次の日から沢山お手伝いをするようになりました。実はカンタとお母さんが仕組んだ「お手伝い大作戦」だとは知らずにね。

学習者 20 の看図作文

タイトル【はじめての友達】

これはとある小学校のお話です。4 月に小学校に入学したばかりのゆうたくんはよく言えばやんちゃな子ですが，悪く言えばとても凶暴な子でした。気に入らないことがあるとクラスのお友達を殴ったり掴みかかったりしてしまうため，二学期になってもクラスでは浮いた存在です。



そんなゆうたくんをいつも叱るのは担任のまり先生。まり先生は体を動かすのが大好きなジャージがトレードマークの先生です。今日はお昼休みの時間をすぎてもいつまでも外で遊ぶゆうたくんを呼びに来たようです。

「ゆうたくん！チャイムが鳴ったら教室で授業を受けようね」

「うううううう，いーーーーやーーーだーーーー！！！！」

自分の思い通りにならず，ゆうたくんはまた駄々をこねてしまいました。ゆうたくんは足元にあった石を思い切りまり先生に投げました。まり先生は間一髪で避けましたがゆうたくんを見るとまた石を構えていました。

「やめなさい！」

先生の怒った声にゆうたくんは怖くて固まってしまいました。ですが，しっかり石は構えています。

「ゆうたくん。さっき投げた石が先生に投げてたらどうなってたかな？」

ゆうたくんは石を構えたままです。

「怪我をしてとっても痛い思いをしてたかもしれないし，もし目に当たってたら先生一生

目が見えなくなってたかもしれないよ。」

ゆうたくんはゾッとしました。ゆうたくんは今まで手をあげた相手がどんな思いをしているのか想像したことがなかったのです。

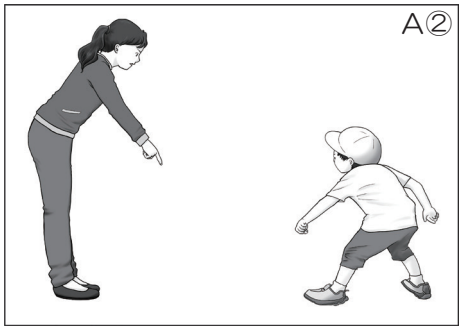
「だからゆうたくん，その石は地面に置きなさい。」

ゆうたくんはやっと落ち着いて石を地面にポイっと捨てました。するとまり先生は優しくゆうたくんを抱きしめてくれました。

「ゆうたくんよく出来たね。人を傷つける事はいけない事だから，もう絶対にしないでね。」

「……うん」

お家でも暴れてしまうゆうたくんは暴れてもお母さんは何も言いませんが，ゆうたくんをお家に置いてすぐに出ていってしまう人でした。こんな風に抱きしめてくれる人はゆうたくんにとっては初めてです。



それから１ヶ月後，まだまだゆうたくんはクラスに馴染めていません。今日もゆうたくんはクラスメイトと喧嘩してしまったみたいです。ついつい手が出そうになった時。

「ゆうたくん！」

そう，まり先生の声です。

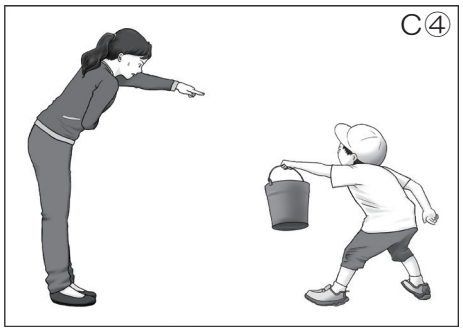
ハッとしたゆうたくんは上げた拳を下ろします。ゆうたくんは，少しずつ自制がきくようになってきました。

「たろうくん，ごめんなさい。」

ダメなことをしたら謝ることができるまで成長しています。

「ふんっ」

まだまだクラスメイトには許して貰えないことも多いですが，少しずつトラブルも減ってきているようです。



それからしばらくしたあと，校外学習でみんなでさつまいも掘りに出かけました。みんなはお芋掘りに大興奮。夢中になってさつまいもを収穫しています。そんなとき，ゆうたくんがまり先生を見つけます。なんだかまり先生，顔色が悪くとっても具合が悪いようです。今にも吐きそうな顔のまり先生にゆうたくんは急いでバケツを持っていきます。バケツを持って走るゆうたくんを隣のクラスの先生が何事かと追いかけてきます。ですが足の速いゆうたくん。ぐんぐん差をつけます。

「まり先生！バケツ持ってきたからここにゲーゲーできるよ！」

「ありがとうゆうたくん。病気がうつっちゃうから離れてなさい。」

やっと追いついた隣のクラスの先生は体調の悪そうなまり先生にびっくり。すぐにほかの先生を呼んでまり先生の看病の準備をします。そんな様子をクラスのお友達は見ていたようです。

「ゆうたくんすごいね！」

「ゆうたくんかっこいい！」

いつも褒められることのないゆうたくんはちょっぴり照れています。

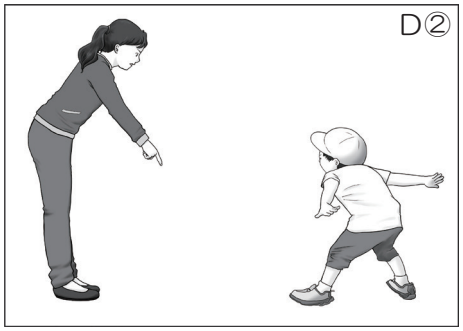
「ゆうたくん！一緒に焼いたおいも食べよう！」

いつもひとりぼっちだったゆうたくんは初めて誘われました。沢山のお友達に囲まれたゆうたくん。今までゆうたくんが怖かったけど，みんな本当は優しいゆうたくんを見てお友達になりたいと思ったようです。

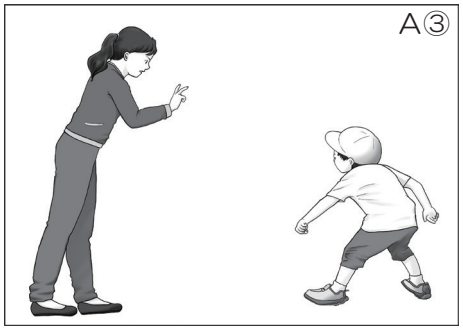
その日からゆうたくんは沢山のお友達に囲まれるようになりました。まり先生がお休みから明けて学校に戻ってくる頃には喧嘩もせず楽しく遊ぶゆうたくんの姿がみられたそうな。おしまい。

学習者 21 の看図作文

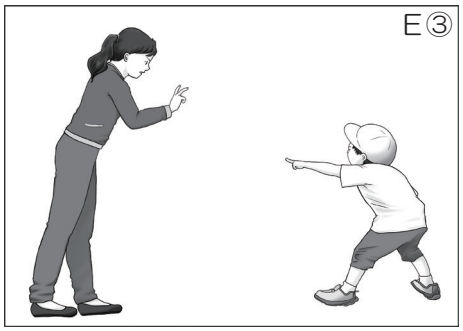
タイトル【世界で 1 番の魔法使い】



この世界では色んな主属の魔法使いが存在する。生まれた時に光る色で属性が決まるのだ。例えば水色に輝けば水属性，赤色は火属性である。ところが僕が生まれた時に光った色は黒。黒の属性は存在しない。無属性だ。魔法が使えない魔法使いなんて僕は世界で 1 番かっこわるい魔法使いだ。だから僕は魔法なんか興味無い。そう思いながらも僕は魔法小学校に入学した。授業は魔法を応用するようなものばかりで生まれた時から魔法が使えるみんなにはすっかり置いていかれた。それを知り，心配した両親が家庭教師を雇った。学校から帰ると家庭教師が出迎えてくれた。「おかえり！今日からよろしくね。まずは大きな水の塊をここにイメージしてみて」。早速水魔法の基本から始まった。言われた通りに僕は目閉じて水の塊をイメージしてみた。「できてるじゃない！」目を開けると大きな水の塊が浮いていた。驚いて声も出ない。「水属性なのね！」と。きっと水属性ではない。「僕，生まれた時に黒く光ってたから無属性だと思ってました」。正直に話すと先生は目を丸くして「黒！？」と声をあげた。どうやら黒く光る種族は全ての属性を合わせ持つと言われているらしいが，1000 年もの間黒く輝く子どもが産まれてこなかったことから伝説となったらしい。



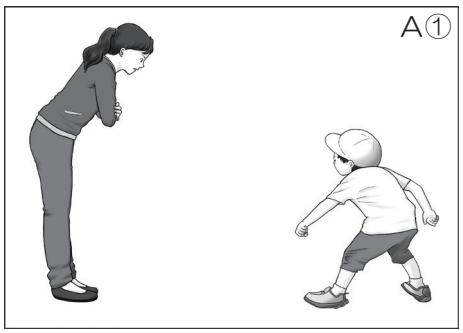
先生は動揺しながらも「じ，じゃあ 2 つ目の火魔法も同じようにイメージしてみて」。言われた通りに僕は火をイメージする。「それを遠くにうちはなつ感じで…」うち放つイメージをした瞬間，「きゃああ！」目を開けると火が庭の木に燃え移っていた。



咄嗟に僕は水魔法をうちはなち，消火した。2 種類の魔法を使ったこと，咄嗟に応用魔法を使ったこと，一瞬火事がおきていたことに先生も両親も僕も処理しきれずに唖然としていた。無属性だと思っていたのがとんでもない才能の持ち主だった。きっと僕はどんな魔法でも使える世界で 1 番かっこいい魔法使いになる。

学習者 22 の看図作文

タイトル【しゅんくんが選んだもの】

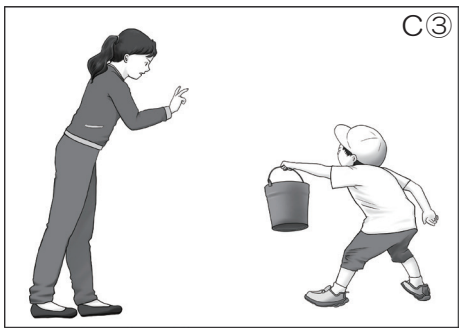


「どうして持って来れなかったの？」

お母さんは強めに言った。しゅんくんは今，公園でなんでもいいからお母さんに渡す遊びをしている。おもちゃを買いに行った時にしゅんくんがどれがいいか決められなくて，全部欲しいと言っていたことにお母さんは手を焼いた。選ぶという力を身につけて欲しくて公園で遊びがてら練習しているようだ。お母さんにしゅんくんは言った。

「なんでもいいってどうすればいいの？」

お母さんは少し考えることにした。



「じゃあ，二つ持ってきてみようか。」

今度は少し優しめに言ってみた。おもちゃを買った時も「どれかひとつね」と言ったら意外とすぐに選んでいた。もしかしたら数を決めてからだといいのかもと思った。そう考えているところに

「はい！持ってきたよ！」

と元気よくしゅんくんが来た。持ってきたのは水入りのバケツだった。

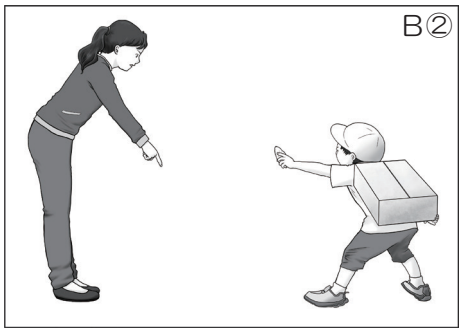
「あれ？二つ持ってきてねって言ったんだよ？」

「バケツと水で二つだよ！」

お母さんは少し驚いた。水を入れて二つにするなんて発想がなかったからだ。

それならばともうひとつだけ。

「今度は石と他になんでもいいから一つ持ってきて。」



「はい！」

しゅんくんは石とダンボールを持ってきた。お母さんは興味津々になり「そのダンボール地面において開けてくれる？」と中身を見ることにした。その中身は空っぽだった。

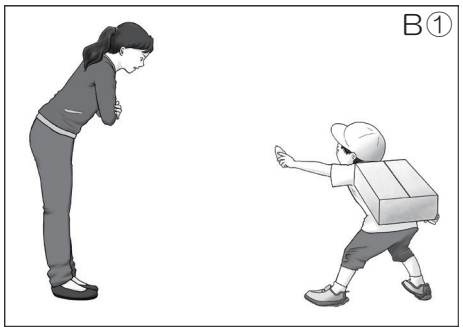
「中には何も無かったの？」と聞くと「ううん，一つだから全部出してきたよ！」

どうやらお母さんが心配しすぎていただけのようだ。ちゃんと選ぶことが出来ていた。安心して帰ることにした。

そういえば，元々ダンボールには何が入っていたのだろうか？それはしゅんくんしか知らない。

学習者 23 の看図作文

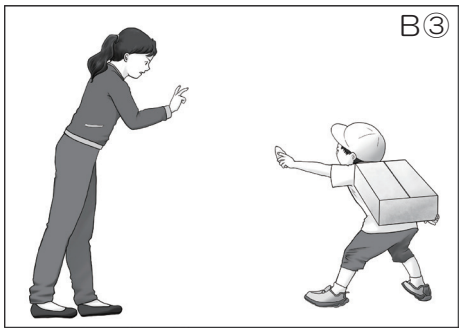
タイトル【ジャガイモバトル】



これは，母と息子のジャガイモバトルである。

先日祖母の家に行き，沢山の芋掘りを頑張ったしょう君。暑かったけどジャガイモが大好

きなしょう君は，パパと一緒にポテトチップスを作るために汗を拭きながら頑張った。ママは暑いのが苦手だから，芋掘りには行かなかった。それがしょう君にとって気に入らなかった。

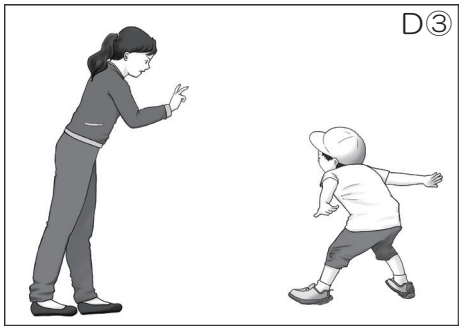


芋は沢山あり，少しずつパパと一緒にポテトチップスを作った。味はスーパーで買うより美味しかった。残り少なくなった頃，ママから残りのジャガイモが欲しいと言われバトルが起こる。

ママ「今日カレー作りたいのよ。ジャガイモ買いに行ったけど高くて…。しょう君のジャガイモ残っていたからママ買ってこなかったのよ。今すぐ使いたいのよ。」

しょう君「嫌だよ！なんで渡さないとダメなんだよ！僕が頑張って掘ったんだよ！暑いのに頑張ったんだよ！」

ママ「それはわかってる…2 個でいいから頂戴。2 個！それならいいでしょ。たったの 2 個よ。まだ 10 個ぐらいあるじゃない！」

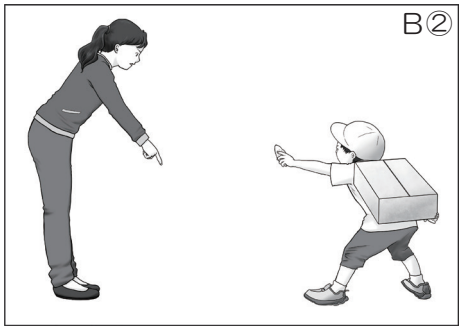


しょう君「ママ，しつこいよ！箱もない！ジャガイモもない！なーんにも持ってないよ～！僕はママからジャガイモを守るんだ！僕とパパで沢山のポテトチップスを作るって，ずっとずっと前から決めてたんだよ！だからママには渡さない！！」

小さい時からしょう君は，じいじとばあばの作るジャガイモが大好きだった。甘みがあり，どんな料理にも良く合う甘さだからだ。ママも小さな頃このジャガイモで作るポテトチップスが大好きだった。そんな子供の頃を懐かしむママは，いつしか諦めてスーパーにジャガイモを買いに行った。

学習者 24 の看図作文

タイトル（記載なし）



さくら小学校の 1 年 2 組には，ケンジ君という男の子がいます。破天荒な行いからか，クラスの中では少し浮いてしまっています。担任のミホ子先生も，彼の行いには手を焼く毎日です。

「ブーン！！シャキーン！！鬼退治マン参上！」

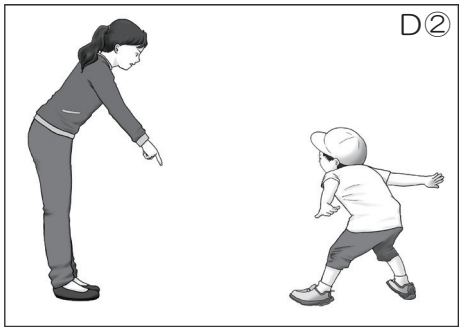
彼はいつも，鬼退治マンというアニメに出てくる，正義のヒーローになりきっています。

「悪い奴らはどこだあ！」

今日も鬼退治マンになりきるべく，段ボールを背負い，石を持ちながら校庭を走り回るケンジ君を見て，ミホ子先生が

「ケンジ君，石を持ったまま走り回ると危ないわ。置いてください。」

と注意します。そうすると，ケンジ君は恥ずかしそうに地面に石を置き，小さな声でごめんなさいと言いました。ケンジ君はいつもこうなのです。破天荒なわりに，あっさりと引き下がるし，素直に謝ります。何か理由でもあるのでしょうか。



その日の放課後，ミホ子先生はケンジ君にそっと尋ねました。

「ねえケンジ君。どうしてケンジ君はいつも，鬼退治マンになりきっているの。」

すると，ケンジ君は恥ずかしそうに言いました。

「鬼退治マンは，みんなの人気者でしょう。僕も鬼退治マンみたいに，悪い奴らを倒して，２組のみんなと仲良くなるんだ。」

なるほど。ケンジ君は，クラスのみんなと仲良くしたくて，それで鬼退治マンになりきっていたのか。鬼退治マンになることではなく，みんなと仲良くなることが目標だったから，石を置きなさいと言われてすぐ置くし，すぐに謝っていたのかと，ミホ子先生は気が付きました。そして，ミホ子先生の頭に，一つの考えが浮かびました。

「ケンジ君。先生，いいこと思いついたわ。先生と一緒に，みんなと仲良くするための修行をしましょ！」

ミホ子先生は力強く立ち上がり，ケンジ君に言いました。キョトンとした顔でいるケンジ君を見て，ミホ子先生が話を続けます。

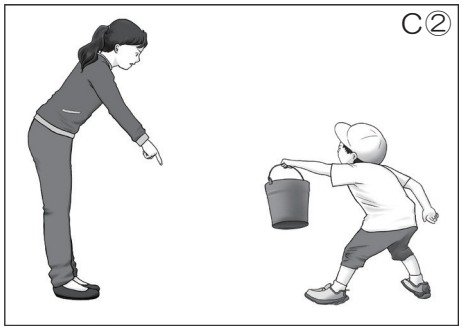
「修行よ，修行。みんなと仲良くなるために，色々なことをやってみるの。鬼退治マンも，鬼を倒せるようになるために，修行をしていたでしょう？」

その言葉を聞き，ケンジ君は目を輝かせて言いました。

「修行したら，ぼくもみんなと仲良くできるかな。」

「ええ，きっとできるわ。明日から，先生と一緒に修行よ！」

次の日から，ケンジ君と先生の修行の日々が始まりました。



「ケンジ君，今日は拭き掃除の日ね！拭き掃除に必要なものは？」

「水の入ったバケツです！お水，汲んできます！」

昨日まで破天荒だったケンジ君が，今日は自分の頭で何をすべきか考えて行動するようになって，クラスのみんなはびっくり。みんな，ケンジ君を見直したことでしょう。

ミホ子先生とケンジ君の修行は，明日も続きます。みんなと仲良くなるためには，鬼退治マンのようになるのではなく，自分が今何をすべきなのかを見極めることが重要であるということに気が付く，その日まで。

学習者 25 の看図作文

タイトル【変わらない笑顔】

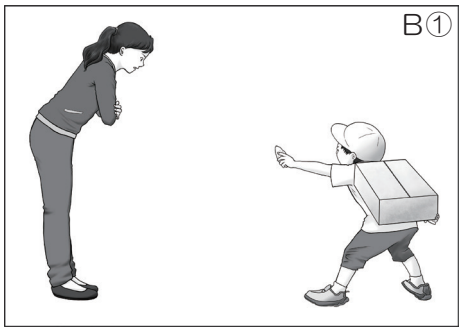
私は小学校教諭歴 20 年の教師である。今日は元生徒が会いに来てくれている。彼は成長していた。

「あの頃の僕のことまだ覚えていますか？」

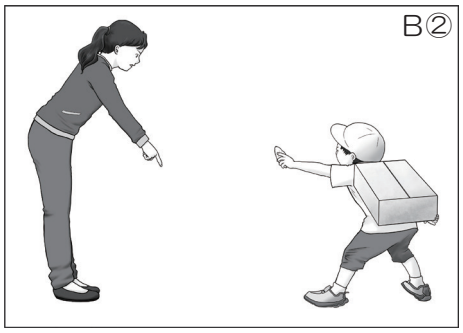
「忘れる訳ないでしょ！あんな問題児！」

新米の私は，ひたむきに仕事をしてきた。けれども，１人頭を抱える生徒がいた。ある日，昼休み中に「ちょっとあの子何とかしてよ」と先輩の教師に言われた。あの子が誰なのかすぐわかった。問題を起こすあの子だと。状況を教えてもらうよりあの子の元に向かった方が早いと思い，立ち上がった。するとその子は背中にダンボールを背負い，左手に先が

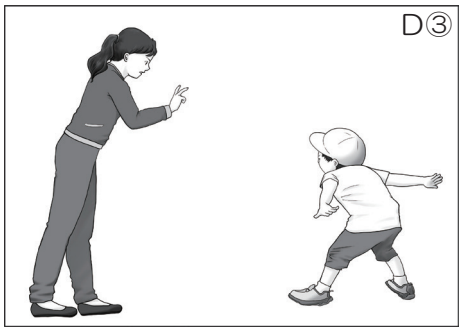
尖っている石を持っている。



真正面に立って体を前に倒し，腕を組んで威圧的に「なにしてるの？」と聞くと「でたな。一本縛り女！」と返ってきた。その子は物事を自己中心的に捉えている発言を繰り返しながら答えた。要約すると，かっこいい石探しの後に，職員室の前に置いてあったダンボールを自分のものにしたとのことだ。



まずは「ダンボールは名前が書いてなくてもあなたのものではないのだから，床に置きなさい」と床を指差した。未だに石をこちらに向けているのを見て「石も床に置きなさい」と付け加えた。



今日はあっさりとダンボールと石を置いた。しかし，ダンボールを背負っているような姿勢を保ち，両手を広げている。

「何その姿勢，普通にしなさい。」

「これが俺の普通だ。」

「あと 2 秒待つ。気をつけの姿勢にしなさい。」と指を 2 本立てた。

それからも，その子には手を焼いた。どんな大人になるのか心配だったが，いらない心配だった。なぜなら目の前にいる元生徒がその問題児なのだから。こんなに好印象な青年に育っているなんて信じられなかった。彼は「先生には感謝しています。あの頃の僕に真剣に向き合ってくれて，嬉しかったんですよ。」と真っ直ぐに伝えてきた。その言葉に目頭が熱くなったがなんとか堪えた。その姿を見て彼はあの頃と変わらない笑顔をむけてきた。

いかがだっただろうか。次はどの絵図セットで，どんな物語が出てくるんだろう？と楽しみにしながら読んでいただけたのではないだろうか。鹿内（編著 2014）は，作文指導において「『面白さ』は求めてはいけない（p.27）」としながらも「書いた作文が面白くなければ，作文を書く人のモチベーションも下がってくる」と述べている（同上，p.27）。上に紹介した作文は，学生たちが充分なモチベーションをもって（つまり主体的に）書いた「面白い」作文になっている。「教育心理学」授業の目標は,「作文指導」ではなく「主体性」「創造性」を発揮して表現できるようになることである。上掲 25 編の作文はこの目標を充分に達成していると思われる。

「看図アプローチ」の授業をしたり,「看図作文」を書いたりするのは,「主体性」「創造性」を引き出すための手段＝ツールなのである。そこで最後に最も「主体性」「創造性」を発揮して書かれた作文を紹介する。作文は 2800 字を超える大作である。また，感想もあわせて紹介する。

学習者 26 の看図作文

タイトル【紋所…？】

これは日本のどこにでもいる，ある小学 1 年生の男の子のお話です。

小学 1 年生になって初めての夏休みを迎えた太郎くんは，夏休み初日から暇を持て余し

ていました。「なんか楽しいことないかなぁ…」と。

そんなある日，太郎くんは１人で山に虫とりに網を持って出かけました。虫を取って遊び回った太郎くんは疲れて切り株に腰をかけて休憩しました。すると…，何やら遠くの林の中で光る地面を発見しました。「ん…あれ，なんだろ…」気になった太郎くんは林の中に入っていきました。

光る場所に着いた太郎くんは，虫とり網と逆の先の方を使い地面を掘ってみました。掘り続けて少ししてから何かに先が触れるのを感じた太郎くんはそこから手で光るものを取りました。手に持つと，さっきまで輝いていたものは光を失い泥まみれの石のようなものが出てきました。とりあえず，家に持ち帰ることにしました。

家に帰ってから月日は経ちすっかり石の存在を忘れてしまった太郎くん。そんなある日，それは夏休みの終わりのこと。泥まみれの石の存在を思い出した太郎くんは，石を裏庭にある水場に持って行きました。そして，ゆっくりと水をかけて洗い流すと…，何やら変な模様の付いたものが浮かび上がってきました。模様が何か気になった太郎くんは調べてみることにしました。

夏休みが終わって学校が始まったある日のこと。中休み昼休みは外で走り回ることが好きな太郎くんでした。しかし，模様の正体を知りたくて図書室に籠る毎日になっていました。周りの友達は「気でも狂ったか？」と不思議に思っていましたが声のかけられないオーラにとどまるしかありませんでした。

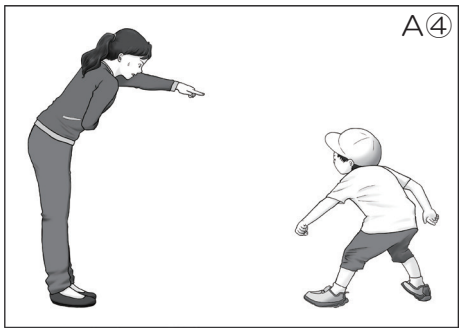
そんなある日，それは突然でした。そう！ついに模様の正体を知ることになりました。歴史の世界コーナーを読み始めた太郎くんは，「紋所」というものを知りました。それがどう見ても，あの石にそっくりなのです。「これだ！…やっと見つけたぞ！」喜びました。少し落ち着いて，文章を読んでみると「昔の武士たちが使っていた家の紋章」だと知りました。そこには，水戸黄門という徳川家のお話も付いており読んでみました。「この紋所が目に入らぬか！！と見せると皆んな言うことを聞いて静かになる…」そこで太郎くんは試してみたい気持ちが出てきました。「これを使って皆んなに効果あるのかな…」興味本意になった太郎くんは試すことにしました。

放課後，公園で友達が集まって皆んなで鬼ごっこをすることになりました。じゃんけんで負けてしまった太郎くん。鬼をやりたくない太郎くんは「俺，鬼はやりたくないよぉ～」と言いましたが「じゃんけんで負けたからダメだよ！」と皆んなに言われてしまいました。そこであの石を思い出しました。「よし，あれ使ってみよ…」石を取り出して「この紋所が目に入らぬか！！僕は鬼なんかやりたくない！！」と叫んだ瞬間，皆んなは急に整列して「その通りです！鬼なんかしなくていいです！」と皆んなが言い出しました。太郎くんは一瞬ビックリしましたが「どうやら本物だ…」と思いながらも「これは使えるぞ…」とニヤニヤしていました。それからと言うもの，色々な場面でやりたくないこと，欲しいものなど自分の言う通りに物事が進んでいました。

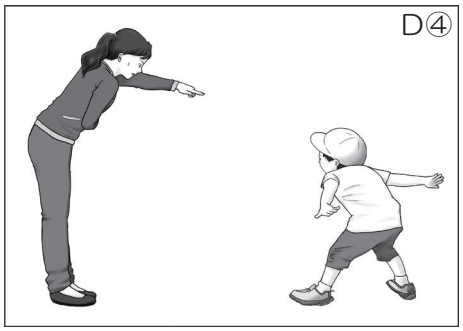
そんなある日，面白い話を耳にした太郎くん。クラスの皆んなの話によると担任の先生が大切にしてると言われる箱があることを知りました。中身がどうしても知りたくなった太郎くんはある行動に出ました。そう，箱を盗んで中身を見ようとしたのです…。今の彼には，あの石がある為，怖いものなど無いのです。

放課後，皆んな居なくなり静かになった校舎に隠れて残った太郎くん。その箱は職員室の先生の机の上にあると知っていました。ゆっくりと歩き出し，職員室に向かった太郎くん。職員室に入り，担任の先生の机に向かうと，その箱は確かにありました。心の中で「やったー！見つけたぞ！」ニヤつきながら職員室

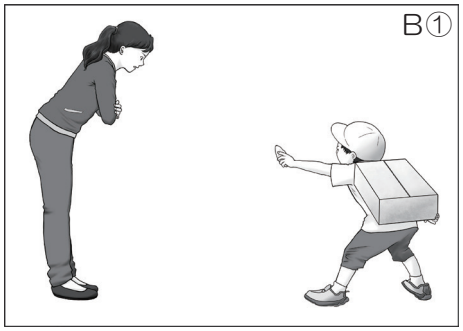
を出ようとした時，「なにしてるの！？」聞き覚えのある声が太郎くんの足を止めました。そう，担任の先生でした…。一瞬ビックリしましたが，石の存在があるので気も大きい太郎くんは反抗し始めました。



先生は，「ここで何してるの！？その箱，どうしたの？」と指をさして怒りました。先生もまさか生徒が居るとは思わず焦りの気持ちから汗が滴り落ちました。太郎くんは「なんでもないよ！俺の物だい！」と反抗しました。



先生は「いいから早く返しなさい！」とまた強い口調で箱を指さして言いました。しかし，太郎くんは「絶対にやだ！僕のだ！」と手を広げて箱を渡そうとはしませんでした。



そして，ついに太郎くんは，いつもの様にあの，紋所の石をポケットから出して，言いました。「この紋所が目に入らぬか！！この箱は僕のだい！」と叫びました。いつものように言うことを聞いてくれると思った太郎くんは叫び終わった後にニヤついていました。しかし，どうでしょう…，先生は全く変わらない姿で「何してるの？？そんな石ころを学校に持ってきて何してるの。」と腕組みをしてさらに怒ってきたではありませんか。何度もそのあと石を見せて叫びましたが一向に効果がありません。すると，石が急にあの林で見つけた時と同じ光を放ち出しました。光と共に石はたちまち消えてしまいました。

少ししてからさっきの光が上から降り注ぎ，先生と太郎くんの間に白い髭をたくわえているウサギのおじいさんが立っていました。すると，ウサギのおじいさんはなんと日本語で話し出しました。

「[主体的] に，考えなくなったからじゃ…。」その一言を言って，また光と共に消えていきました。「主体的…？」太郎くんは意味が分からず開いた口が閉じません。すると，先生が「自分で考えるという意味よ」と言いました。また先生は続けて言いました。「その石を使って太郎くんは自分で考えて何かしようとか，少なくなったんじゃないかな？」と。太郎くんは，考えました。「この石が有れば…，なんでも出来るし何も考えなくても，全て上手くいってた…」先生は再び口を開き「自分で考えないことが続いたから石が消えたのかもね」と一言，言いました。すると，太郎くんは急に泣き出して，座り込みました。「先生，ごめんなさい…，箱も返すし，自分で考えてこれから頑張るから…ごめんなさい……」と必死に泣きながら謝りました。先生は「大丈夫よ。顔を上げて！箱は何もいいのよ，箱には来週皆んなに配る為のプリントが入ってるだけだからね！」と半分笑いながら言いました。再び「けど，なんか太郎くんの為になったんじゃないかな？」と言いました。さらに続けて「自分で考えるって大切だよね！それにあの石とあのウサギのおじいさんが気づかせてくれたの

かもね。」と続けて話しました。

それから月日はたちウサギも石ころの話も先生と太郎くんの間の秘密となりました。

そんな出来事があってから，太郎くんは，自分でチャレンジして，他の人が考えないことを考えてみる！など［主体的］に考える様になりました。

めでたしめでたし！

学習者 26 の感想

最後なので，暴れました笑！（何字書いたかは分かりませんが…笑！）

作品について，今回のこの話は，絵図にたどり着くまでが長いですが，学んだことを入れて話を作りたいと思っていました。主体的な学び！！ウサギのおじいさんも隠れ出演…笑！！となってます！。主体的な学びを石が気づかせてくれているのです。本来教育には，「主体的・対話的で深い学び」が必要と石田先生は 1 年の教育学からずっとおっしゃっていました。このストーリーの担任の先生も太郎くんも改めて気づくそんなストーリーとなっています！

最後に，1 年の頃から今まで教育学，教育心理学と教えて頂きありがとうございました！！新しい講義の形を体験出来て大変嬉しく思っております！

前回の，きゅうちゃんの物語では先生の編集のご協力もあっていい作品を作ることが出来ました。また，何回もお褒めのお言葉を頂き，嬉しく思いました。この学びを生活の中に！リハビリに！活かして行きます！本当にありがとうございました！！

学習者 26 は 1 年次の「教育学」授業とも関連づけたレポートを提出してくれた。学習者 26 は「他の人が考えないことを考える」という目標を「教育心理学」授業開始時から繰り返しレポートに書いていた。今回の看図作文は，その自己目標を反映した作品になっている。

Ⅴ．考察

創造性（独自性）の高さをはかる指標として，高橋（編著 2002）が参考になる。この『創造力事典』によれば，「ユニークさをみるもので，予備テストの結果から出現頻度が 5 %以上のアイデアは 0 点，5 %未満 1 %以上を 1 点，1 %未満を 2 点として得点を与える（高橋編著 2002, p.52）」。つまり，ユニークな作文（創造性・独自性が高い作文）は通常 5 %未満しか出現しないということである。クラス全体から 1 ～ 5 %程度ユニークな作文（創造性・独自性が高い作文）が産出されればよいほうなのである。本稿では 26 例の看図作文を紹介したが，履修者全員 74 名から計算すると，約 35.1 %の創造性（独自性）豊かな作文が産出されたことになる。

また，26 例中 4 例が今年度初めて筆者の授業を履修した学生の作文である。初履修者 14 名から計算すると約 28.5 %になる。作文を選出するとき筆者はあくまで内容を読んでリストアップしていった。作文選出に際し看図アプローチ基盤型授業を 8 回履修した者か 16 回履修した者かは全く意識しなかった。したがってごく自然にこのような割合になったのである。このパーセンテージの高さは，本授業の目標のひとつである「創造性」の育成が実現していることを示しているのではないだろうか。「創造性」がはたらくということは，そもそも「主体性」がはたらかなければ成り立たない。自ら考え創意工夫をした結果，創造物として表出されるのである。このような理由から，本研究では「創造性」「主体性」育成の同時達成がなされたと見なすことができるのではないだろうか。さらに，「創造性」「主体性」育成のためには看図アプローチ基盤型授業が有効であることも示された。

本研究誌 14 号で初登場いただいた村山信子氏が，以前，研究会の中で次のようなことを話していた。「（学生は）大学で教わった A の場合・B の場合の患者さんはみれる。じゃあ，大学で教わっていない C のパターンの患者さんが目の前にいたら，あなた（看護師）はどうするんですか？っ

てなりますよね。」看護師でもセラピストでも教師でも，実際の現場では「大学で教わっていないこと」は頻発して起こる。どんな場面に遭遇しても，そこにある「もの・こと・ひと」を冷静に見て，適切に対応していく力が求められる。そのような力をつけるためには，地道な積み重ね（トレーニング）が必要である。

森（2022b）は次のように述べている。学生たちが「世の中に出る時には，『これからどうしていくといいのだろうか。』『この仕事では，何が一番大切なのか。』『目の前の人に対して，何ができるのか。』……などなど，ひとりひとりが価値ある『問い』をもつ心が大切になってくるはずです。／これは，生徒だけではなく，大人である私たちも同じです。この「問い」をもつ心は，小さなことから始められます。その小さなひとつとして，この「看図作文」の授業が位置づくと私は考えています。／「問い」をもつことが楽しい。他の人の「問い」，他の人の「答え」を聞く時間が面白い。自分で考えた「問い」に対して自分で「答え」を考えるのがたまらない……。／これまでの学校教育であまり重んじられることのなかったこういった資質や能力を，教室の仲間とともに，試行錯誤しながら，楽しみながら育てることができるのが，この『看図作文』の授業をする最大の魅力でもあり，最大の醍醐味なのです。（p.45）」そして，「学習者のスキルやマインドをピッカピカに磨くことのできるこの『看図作文の授業』を，校種を問わず，そして，教科を問わず，多くの方々に実践していただければ，と強く願っている。（森 2022a，p.17）」筆者も強く同意する。学校や大学を卒業して「問い」を発してくれる「先生」という存在から離れたら，そこからは自ら「問い」を見出し主体的に考え適切に対応していかなければならない。ある日突然できるようになるものではないからこそ，様々な科目を通して看図アプローチ・看図作文を取り入れた学びが必要なのである。

少し時間をさかのぼるが，2020 年度の「教育学」授業では次のような考察が見られた。期末レポート課題として「見る教育があるのとないのとでは何が違うのでしょうか。あなたの考えを書いてください。」と出題したものである。なお，「見る教育」は「看図アプローチ」と同義で用いた表現である。1 年次の授業では「看図アプローチ」という言葉よりも「見る」という言葉を強調して用いていたためこのような表現をとっている。

2020 年度「教育学」履修生 1 の考察

近年，アクティブラーニングなどの実践的な教育が重要視されている。しかし，日本では「見る」ことを重要視した教育が現在でも不足している。本稿では，見る教育による影響について筆者が考えたことを述べていく。

私は，見る教育を行うことで，物事を立体的に捉えることができるようになると考える。今までの教育では，問題提起をされた文に対して自分自身が考え，それについて論ずることが多かった。しかし，教育の課程を終了し社会で活躍しようとすると，問題を自分から探していくことが求められる。問題文を出してくれる先生のような存在はいないのだ。なので自分自身でどこに着目するか，どういった方法でどんな行動をとるか，それらの最適解を探し出し行動しなければならない。「見る教育」が存在しなければ，教育課程を卒業し，社会の現場に放り出された時に，どのように行動すれば良いかが分からなくなってしまう。加えて，文章能力は小学生のうちに養わなければ，その後の急速な成長は望めないなどといった，幼い頃から取り組まなければ成長に結びつかない物事も存在する。「見る力」の主は人間として備わっているものであり，それを強化するには幼い頃から体験して行った方が有利であるように感じる。よって，見る教育があるのとないのでは，物事の捉え方の幅や仕事による成果にも差が生じると考える。

よって，私は，見る教育を重要視し，自主的な学びを推奨する。

下線部は，先の森（2022b，p.45）の言葉と

も重なるものである。社会，とくに医療という厳しい世界で生きていくことになるＡ大学の学生たちにとって，「主体的に考えること」「創造性を発揮して実践すること」は身につけておくべき重要なスキルであると筆者は考えている。また，患者様・同僚等々，たくさんの人と良好な関係を築いていくための素地として，協同的な学びを経験しておくことも必要不可欠である。そのような機会をつくり出すことができるのが,「看図アプローチ」「看図作文」なのである。少ない授業回数の中で，100％すべての学生に看図アプローチによる学びをマスターしてもらうことは難しいことである。しかし，本稿で紹介したような主体性・創造性を発揮したレポートを書いてくれる学生は毎年必ず出てくる。そして，学んだことを「将来」につなげようと考えてくれるようにもなる。「教育心理学」の全８回の授業を終えての感想を５例あげ，本稿を閉じたいと思う。なお，この感想は期末レポートの看図作文に添えて「主体的」に書いてくれていたものである。

「教育心理学」授業を終えての感想例１

１年生の頃の教育学，そしてこの授業を受けて，自分の意見を伝える楽しさを知ることができました。私は，自分の意見や気持ちを伝えるのがすごく苦手で泣きそうになってしまうので，高校生の頃はいかに自分の気持ちを抑えて過ごせるか考えていました。そのため，部活仲間には意見がない人だと思われ，いいように使われることも少なくありませんでした。ですが，授業で自分の意見を言わなきゃいけない場面になり，最初は抵抗がありましたが，発表してみるとみんながよくそんなこと気づくね！などと反応してくれるのが嬉しくて段々と発言する楽しさが分かるようになりました。今では友達との間の会話でも，みんなと違う意見でもしっかり自分の意見を伝えられるようになったと思います。自分でもそれを感じることが出来ているのが嬉しいです。このような授業は中々ないですが，自分の成長を自分で感じることが出来るいい機会を貰える授業だと思うので，ぜひ後輩にも体験して貰いたいなと思います。楽しかったです。ありがとうございました。これからもたくさんお仕事あると思いますが，お体に気をつけて頑張ってください。

「教育心理学」授業を終えての感想例２

全ての授業を終えて，いろんな考え方を学びました。本当に楽しくて面白かったです。同じ年代で同じことを勉強してきたはずなのに考えていることは様々で，きっと臨床ではもっといろんな考えをもった患者さんがいると思います。だからこそ技術だけではなく，相手の意見を尊重し，寄り添って行けるようなセラピストになれるように頑張ります。短い間でしたが楽しかったです。ありがとうございました！

「教育心理学」授業を終えての感想例３

毎回とても楽しい授業でした。なので，終わってしまうのがとても悲しいです。これからも主体性や創造性など，授業で習ったことを活かしたいと思います。ありがとうございました！

「教育心理学」授業を終えての感想例４

最後のレポートだからか，今回の課題は，いつもよりなんだか時間がかかってしまいました。同じような３枚のイラストに，どのような違いがあるのかよく見て，整理する作業をし，それをもとに物語を考えるというのは大変さもありましたが，楽しいという気持ちのほうが大きかったです。

そして，ただでさえ長いレポートを，これ以上長くするのはなんだか恐縮ですが，私の話をさせてください。私は，高校で人間関係が上手くいかなくて，大学に入ってからも，ずっと人と関わるのを怖がっていました。しかし，教育学で色んな人と話すことができた

り，先生がレポートの返信で何度も励ましてくださったおかげで，なんとか少しずつ，色々な人と話せるようになってきました。前までの私なら初対面の人と話す時，意見が違ったらどうしよう，変だと思われるかな。そうならないようにしないと。と無駄に想像をふくらませて，自分にブレーキをかけていました。しかし教育学や教育心理学を受けているうちに，「同じものを見ていても，切り取る場所や受ける印象は人によって違うものであり，それを楽しんだり，自分の糧にしていくことが大切なのだ」と気がつきました。私にとって石田先生は，教育学を扱うセラピストと言っても過言ではないかもしれません。今の私があるのは，石田先生のおかげです。そんな石田先生や，かわいい白血球のきゅうちゃんと，もう講義で会えないと思うと，すごくさみしい気持ちになりますが，よりよいセラピストになるために，まずは勉強を頑張っていこうと思います。最後になりますが，教育心理学を開講してくださってありがとうございました。いつかどこかでまた，石田先生に会えるといいなと思います

「教育心理学」授業を終えての感想例 5

最初に書いたときに 1200 字あり，削る作業に時間がかかりました。最初に 3 枚の絵図を見た時に，これ何が違うのかと考えてしまいました。1 枚 1 枚の差があまりなく，私は B①とB②を続けて引いてしまったので難しかったです。今回小学校の先生と生徒とのお話を考えましたが，本当にあったら感動するだろうなと思って書いていました。私はそんな問題児ではなかったはずですが，小学校，中学校，高校とそれぞれお世話になった先生方がいます。会いたいなと思っても今どこに勤めているのかわかりません。私にとっては思い出の先生ですが，先生にとっては数多の中の生徒なのかなと思い，もう覚えていないのだろうかと寂しくなってしまいます。顔もしっかり思い出せないくらい時間が経ってしまいましたが，いつか会って先生があまり覚えていなくても感謝を伝えたいなと思いました。

教育心理学が終わってしまって悲しいです。先生は他の先生と違って優しく，穏やかでした。私たちの担任の先生は少し厳しくホームルームがあると，5 分前には席につき，ペンとメモ用紙を机の上に出して始まるのを待っています。緊張感が漂う空間です。先生の授業が楽だったという意味ではなく，のびのびと授業を受けられ，正解がなく主体性を求めているこの授業が新鮮で好きでした。文を書くことに慣れ，長く書けるようになりました。自分の意見に自信が持てるようになりました。自分は稀に他人とは異なるものの見方をしていることに気づかせてくれました。初めて話す人でも会話が続くようになりました。意見が分かれても良いのだと知りました。このようにこの授業を通して沢山のことを学びました。いつも受けているセラピストになるために必要な知識ではなく，自分がレベルアップできるために必要なスキルを教えてもらったと感じています。これからは教えて頂いたことを身につけて，セラピストとして将来に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました！

筆者自身恐縮してしまうような感想もあったが，有難く，素直に受けとめたい。

筆者は「美術」と「教育」を専門としている。学生の頃から「美術」と「教育」がどのように結びつけられるのか考え続けていた。美術を学んできた人間だからこそできる教育へのアプローチとは何か…。その問いの「最適解」が「看図アプローチ」「看図作文」である。「教育心理学」授業を終えての感想例 1 の学習者が述べているように，「看図アプローチ」「看図作文」の授業は実際に，「自分の成長を自分で感じることが出来るいい機会」になるものである。授業は，教師が一方的に教え込むのではなく，「○○できるようになった」と

学習者自身が感じられるようファシリテートしていくことが重要である。そしてそのファシリテートを円滑にするのに看図アプローチは大変有効である。看図アプローチにはビジュアルテキストが必須である。筆者はこれまで数多くのビジュアルテキスト・絵図を制作してきた。ビジュアルテキスト・絵図をつくり出すこともまた主体性と創造性を伴う行為である。主体性と創造性をみがくことを学生にのみ求めるのではなく，筆者自身もみがき続けていきたい。

引用・参考文献

石田ゆき　2021a 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際－医療系大学における『教育学』授業を例にして－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』5 号　pp.3-16

石田ゆき　2021b 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（２）－写真をビジュアルテキストにした『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6 号　pp.16-29

石田ゆき　2021c 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（３）－ビジュアルリテラシーを定着させるための『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』7 号　pp.3-18

石田ゆき　2021d 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（４）－写真をビジュアルテキストにした『 教育学』授業【江別・高岡完結編】－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』8 号　pp.3-22

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善　2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ －絵本づくり授業実践の報告－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1 号　pp.2-15

森　　寛　2020 「『看図作文』のススメ－誌上・模擬授業体験を－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2 号　pp.12-19

森　　寛　2022a 「『看図作文』の授業レポート－『20 枚の絵図』で願いを伝える－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』13 号　pp.3-17

森　　寛　2022b 「『看図作文』の授業を始めたくなったら－コレだけ知っていれば，自信をもてる！－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14 号　pp.33-46

鹿内信善　2003 『やる気を引き出す看図作文の授業－創造的［読み書き］の理論と実践』 春風社

鹿内信善　2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方－看図アプローチで育てる学びの力』 ナカニシヤ出版

鹿内信善編著　2010 『看図作文指導要領－「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン－』 溪水社

鹿内信善編著　2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち • 看図作文レパートリー •』 ナカニシヤ出版

鹿内信善　2020 「アクティブ・ラーニングを引き出す『保育の心理学』の授業づくり－看図アプローチを活用して－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4 号　pp.24-43

鹿内信善・栗原裕一・渡辺聡・伊藤公紀・石田ゆき　2007 「看図作文の授業開発 (Ⅰ) －心理的リアクタンスを作文の動機づけに活用する試み－」『北海道教育大学紀要 (教育科学編)』 第 57 巻　第 2 号　pp.101-111

鹿内信善・渡辺聡・石田ゆき・伊藤公紀・栗原裕一　2008 「看図作文の授業開発 (Ⅴ) －インプット・アウトプット法に活用する絵図の作成－」『初等教育・教師教育・社会教育研究年報いわみざわ』 第 29 号　pp.29-40

高橋誠編著　2002 『新編創造力事典』 日科技連

2022 年 10 月 24 日受付
2022 年 11 月　1 日受理